【書式Ａ】　施設名　文化財活用センター　処理番号　1311H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
（文化財活用センター）
ア　企業等との連携を図りつつ、先端技術を駆使し、文化財に親しむためのレプリカや VR 等映像コンテンツを開発し、提供する。
　文化財の理解を促進するため、積極的に機構外施設へのアウトリーチに取り組む。

担当部課	本部文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　松嶋雅人

【実績・成果】
（文化財活用センター）
ア
・企業等との連携により、高精細画像撮影等の先端技術を用いて、高精細複製屏風や映像コンテンツ等の開発を行った。
・開発したコンテンツを体験型展示に活用し全国に巡回することで文化財への理解を深める機会を広く提供したほか、高精細複製品貸出事業や、複製品による教育プログラム事業を実施し、全国の人々が文化財に親しむ機会の創出に寄与した。

【補足事項】
・30年度、元年度に締結した、キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社との共同研究プロジェクトを継続。
・「伎楽装束　裳・袍」の復元制作を元年度に引き続いて実施。「焔」「観楓図屏風」「四季花鳥図屏風」の高精細複製品と「重要文化財　遮光器土偶」「国宝　埴輪　挂甲の武人」のハンズオンレプリカ、並びに「黒糸威二枚胴具足」（重要文化財）の着用体験用甲冑、「国宝　埴輪　挂甲の武人」の着用できる挂甲を制作等、計9件（15点）の複製を制作。
・ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！ 日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」（新型コロナウイルスの影響により中止）で展示予定であった「国宝　花下遊楽図屏風」の高精細複製品のプロジェクションマッピングを事前予約制で限定公開（7月1日～2日）した。満足度調査では展示全体について85%から「とてもよい/よい」の評価を得た。
・企画展示「なりきり美術館」シリーズを、千葉市美術館（7月11日～9月6日）、大分県立美術館（3年2月19日～5月9日）へ巡回。千葉市美術館では会期中（31日間）4,933人、大分県立美術館では年度内会期中（39日間）10,710人がコンテンツを体験した。
・東京国立博物館ミュージアムシアター内で日本文化紹介映像の無料上映を行った（7月1日～3年3月28日）。また文化財活用センターウェブサイトにて本動画を先行公開した（5月7日～）。
・シャープとの共同研究によるコンテンツ「8Kで文化財　ふれる・まわせる名茶碗」の実証実験を東京国立博物館東洋館エントランスにて実施し、延べ1,856人が体験した。（事前予約制の限定公開：7月29日～8月2日、一般向け再公開：11月10日～23日）。
・東京国立博物館、KDDIとの共同プロジェクトで、5G、ARを活用したコンテンツ「5Gで文化財 国宝『聖徳太子絵伝』ARでたどる聖徳太子の生涯」を東京国立博物館法隆寺宝物館資料室にて実施し、延べ1,437人が体験した。（事前予約制の公開：9月29日～10月25日。24日間）。


8K で文化財 ふれる・まわせる名茶碗

・企画展示「なりきり日本美術館リターンズ」（10月27日～12月6日）を東京国立博物館本館特別4室特別5室で開催。会期中（36日間）26,064人（うち中学生以下5,207人）が体験した。97.1%から「とてもよい/よい」の評価を得た。
・東京国立博物館、凸版印刷株式会社と共催して、本館の一部をCGで再現する「バーチャルトーハク」（12月19日～3年2月28日）を公開。アニメーション映画「時をかける少女」（細田守監督）劇中の架空の特別展「アノニマスー逸名の名画ー」を構築し、延べアクセス人数は3,374人であった。合わせてスペシャルトークライブ(12月18日)を実施し、214人が参加した。
・東京国立博物館・NHKの共同研究「みんなの8K文化財」プロジェクトで、文化財活用センターがマネージメントを行い、超高精細な3DCG＝「8K文化財」を制作。放送番組「誰もみたことのない8K文化財」（NHK・BS8K）として「舟木本　洛中洛外図（3年3月20日）、「遮光器土偶」（3年3月20日）を制作・放映した。


なりきり日本美術館リターンズ

・NHKエンタープライズと共同研究プロジェクト「オンライン用コンテンツ制作事業」を締結し、今後のオンラインコンテンツ制作の方向性を検証するため、オンライン月例講演会「白描図像ー祈りと魂の描線ー」（3年3月）を制作した。
・複製品の貸出（4件）や、複製品を使用した教育プログラムの提供（アウトリーチ）（11件、体験者数1,100人）を実施した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
体験型プログラム等実施回数※	423回	－	－	経年変化	－	－	91	149
体験型プログラム等参加者数	52,127人	－	－		－	－	98,791	140,647 （九博富山8K）

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	企業と連携したレプリカの開発、アウトリーチによる活用、体験型展示の開発と地方巡回等、文化財に親しむ機会を創出すると共に活用の枠組を広げ、年度計画を上回る成果をあげたといえる。

【中期計画記載事項】
　講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	使用目的に応じた文化財のレプリカ制作を企業と連携して行ったことにより、学習機会の拡大や体験型展示の巡回、新規事業を展開し、順調に国内の博物館、社会教育施設、学校などとの連携協力を推進することができ、目標に準じたかたちで中期計画を遂行できた。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
（4館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（東京国立博物館）※イ、ウは後述
ア　文化財について分かりやすく理解するための月例講演会・記念講演会・連続講座・ギャラリートーク・教育普及イベント等を継続して実施する。
エ　トーハク新時代プランに基づき、外国人を対象とするガイドツアーを行う。
オ　障がい者や外国人等多様な来館者を対象とした教育普及事業のあり方について検討する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課 総務部総務課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり 総務課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（4館共通）
ア ・新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン月例講演会やオンラインギャラリートーク等、YouTubeを利用した新たな動画配信を開始した。
（東京国立博物館）
ア、オ　29年度より継続実施している、訪日外国人をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」は新型コロナウイルスの影響により時期を変更したが、体験型展示・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」及びその関連オンラインプログラムとして実施した。
エ ・外国人来館者をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」は、体験型展示・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」及びその関連オンラインプログラムとして実施した。
オ ・聴覚障がい者がオンラインプログラムに参加できるよう、動画配信に字幕やテロップを付した。
・新型コロナウイルスの影響により中止となったが、特別展に関連して、トークショー・図録付きで閉館時間後に観覧できるプレミアムチケットを販売し、指定数を完売した。

【補足事項】
（４館共通）ア及び（東京国立博物館）ア
・講演会10回 参加者数29,875人（参加者数はYouTube再生回数）
内訳 ①オンライン月例講演会8回、参加者数24,923人 ②記念講演会0回、参加者数0人
③オンライン国際シンポジウム2回、参加者数4,952人 ④テーマ別講演会0回、参加者数0人
⑤その他講演会0回、参加者数0人
・列品解説（ギャラリートーク等）9回、参加者数22,157人（参加者数はYouTube再生回数）
内訳 ①オンラインギャラリートーク9回、参加者数22,157人
②特別展関連ギャラリートーク0回、参加者数0人
③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク、0人0回、参加者数0人。
・連続講座0回（2日）参加者数0人
・公開講座0回、参加者数0人
・その他展示に関連する事業2回、参加者数3,880人（カレンダー配布はウェブサイト上でPDFデータ配布のみ実施）


オンライン月例講演会の様子（撮影）

ア、オ　日本文化体験
親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」（体験型展示）　36回（36日間）参加者17,470人
親と子のギャラリー関連プログラム「浮世絵摺実演」　1回（1日間）参加者　3,880人（参加者数はYouTube再生回数）
エ
新型コロナウイルスの影響により、外国人を対象としたガイドツアーの実施は延期となった。
日本文化体験「浮世絵摺り実演」オンライン配信　1回（1日）参加者　3,880人（参加者数はYouTube再生回数）英語通訳実施

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
講演会等の開催回数	19回	128回	―		160	125	93	97
講演会等の参加者数	52,032人	－	－		21,453	21,692	12,206	11,691

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス蔓延防止のため、講演会等が中止となり、開催回数は目標値を下回ったが、オンラインプログラムなど新たな試みを行った。日本文化体験プログラムも、感染対策を万全にする、あるいはオンライン配信にするなどして順調に開催された。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、様々な形式で講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等を順調に開催した。今中期最終年度となる２年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため従来の集客式、対面式の方法が採用できなかったが、これをオンラインに切り替えて実施した。結果的には従来より多くの聴視者を獲得することができ、同時に当館研究員の多彩な専門分野に関する研究・普及活動を広く発信することとなった。またオンライン化によるコンテンツの内容や方法などを研究する機会ともなった。以上のことから、中期計画を遂行できたといえる。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1311A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
イ　日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、19 室のみどりのライオン、東洋館 2 室、6 室のオアシス等を教育普及スペースと位置づけ、さらに、大講堂、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、対象と内容に応じた事業を展開する。
（ア）ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施
・特集　親と子のギャラリー「動物のうごき」（5 月 12 日～6 月 14 日）（新型コロナウイルスの影響により中止）
・特集 親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」（10 月 27 日～12 月 6 日）
・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」（新型コロナウイルスの影響で 1 月 19 日～2 月 28 日に延期）
（イ）総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」（中止）、「博物館でアジアの旅」（9 月 8 日～10 月 11 日）、「博物館に初もうで」（時期調整中）において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。
（ウ）体験型プログラムの実施
・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向け体験型プログラムを実施する。
・本館19室・本館地下みどりのライオン・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。
・トーハク新時代プランに基づき、日本文化に関連した体験型アクティビティを恒常的に実施するためのスペースとして本館特別4室を整備しプログラムを実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
イ　新型コロナウイルスの影響を勘案し、本館19室のみどりのライオン、東洋館6室のオアシスは閉室とした。また、東洋館2室等の体験を中止した。対面での教育普及事業が制限されるかわりに、ホームページ上に「みどりのライオン オンライン」を開設した。動画やダウンロードできる素材を作成することで、遠隔地からもアクセスできる機会になり、学習機会を広げることができた。
（ア）特集「親と子のギャラリー　トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」では、30年度に実施した「なりきり日本美術館」の続編として、「なりきり」を切り口に自由な発想で美術に親しむ体験型展示を実施した。題箋、解説は4言語に対応し、平易な言い回しによる解説や直感的に楽しめる参加型展示手法により、若年層・家族層にも分かりやすく親しみやすい内容となった。
特集「親と子のギャラリー　まるごと体験！日本の文化」では、デジタルコンテンツからぬりえやスタンプなどのハンズオンコンテンツまで、多様な文化体験を提供し、平易な言い回しによる4言語の題箋、解説により来館者の体験を深め、テーマへの理解を促した。
（イ）多くの教育事業が新型コロナウイルスの影響により中止となったが、スタンプツアーを体験できる動画の配信や、ダウンロードできるぬりえや干支のカレンダーのPDF版公開など、代替プログラムを実施し、学習機会を拡大した。
（ウ）特集「親と子のギャラリー　トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」関連プログラムとして、オンラインファミリーワークショップ「なりきり光琳」を実施。遠隔地からの新規参加者も開拓することができた。また、「親と子のギャラリー　「まるごと体験！日本の文化」」として本館特別4室を整備し、日本文化に関連した体験型アクティビティを開発、実施した。

【補足事項】
・親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」は36日間（36回）の実施で26,064人の入場者があった。関連ワークショップ「なりきり光琳」（4回76人）をオンライン開催した。
・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」は36日間（36回）の実施で17,470人の入場者があった。
・10月31日～11月15日に子どもとその保護者のためのイベント「トーハクキッズデー」をオンライン開催した。


「親と子のギャラリー　なりきり日本美術館リターンズ」会場の様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
体験型プログラム等実施回数※	129回	－	－		827	703	702	671
体験型プログラム等参加者数	44,020人	－	－		199,167	272,867	309,901	360,572

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により中止となった事業も多かった一方、オンライン化の試みにより遠隔地の参加者への学習機会の拡大にもつながった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、外部団体との連携協力を行いながら、後援会、ギャラリートーク、ワークショップ等の学習機会を提供できた。今中期最終年度となる2年度では、従来の手法での対応が困難であった一方、オンライン化をはじめとする代替や新規の取り組みの試行や実施ができ、一定の成果を上げたといえる。以上のことから中期計画を遂行できたといえる。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A3

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
ウ　学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。
・教員を対象とした研修等を継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
ウ
・新型コロナウイルスの影響により中止となった対面によるスクールプログラムにかわる手段として、スクールプログラムの内容を動画にまとめ、学校で事前に視聴できるよう YouTube チャンネルで公開した。博物館への訪問を計画する学校には事前視聴動画を案内し、視聴を希望した学校は動画と自由見学を組み合わせて体験した。
・緊急事態宣言発令のため中止となった「盲学校のためのスクールプログラム」をオンラインにより実施した。
・新型コロナウイルスの影響により中止となった対面による職場体験にかわり、職場体験プログラムの動画作成の準備と、オンラインによる職場インタビューを行った。
・教員を対象とした研修を３回予定していたが、いずれも新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止（うち１回は関連した特別展自体が中止）となった。

【補足事項】
ウ　スクールプログラム（事前視聴動画活用）13校537名（小学校6校242名、中学校3校211名、高校3校69名、その他1校15名）
スクールプログラム（オンラインで実施）2校71名（中学校1校61名、高校1校10名）
盲学校のためのスクールプログラム　１校2名（小学校）
職場体験　　1校3名(中学校)



スクールプログラム事前視聴動画

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
スクールプログラム実施回数	16回	－	－		227	273	228	174
スクールプログラム参加者数	610人	－	－		7,910	10,056	8,895	6,049
職場体験実施回数	1回	－	－		19	20	20	24
職場体験参加者数	3人	－	－		63	63	63	76
教員を対象とした研修実施回数	0回	－	－		6	6	5	3
教員を対象とした研修参加者数	0人	－	－		235	513	465	567
印刷物	30,000部	－	－		30,000	37,000	177,000	477,000

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
スクールプログラムに関しては、新型コロナウイルスの影響により2年度当初は休止、9月より「事前視聴動画＋自由見学」の形での受入れを開始したため、参加人数は519名にとどまった。代替となる事前視聴動画公開の取り組みについて、活用した教員を対象とした事後アンケートでは内容について「わかりやすい（100%）」の回答があり、好評を得た。今後も対面プログラムの再開に向けて検討を重ねるとともに、オンラインを通じて博物館や文化財に親しんでいただく方法を模索していきたい。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
今中期全体を通して、学校や東京都等との連携協力の下、スクールプログラム、職場体験、教員研修などの学習機会の提供等を行った。今中期最終年度となる2年度は、新型コロナウイルスの影響にともない、集合型・対面型のプログラムの手法がとれず、数字上は従来の実績を大きく下回る結果となった。一方でオンライン化など代替や新規の取り組みの試行や実施は、今後の博物館教育普及活動に資することが期待される。以上のことから中期計画を遂行できたといえる。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1311B1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（京都国立博物館）
ア　歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（4館共通）
ア　京都国立博物館においては、23回の講演会等を開催した。

（京都国立博物館）
ア
・「記念講演会」（7月23日、講師：西国三十三所札所会　会長　藤田浩哉）ほか、（12回・1,227人）を実施した。
・「土曜講座」（1月16日、講師：研究員　古谷毅）ほか、（7回・572人）を実施した。
・「夏期講座（日本人と自然Ⅱ）」（7月31日、8月1日、講師：特任研究員　宮川禎一ほか5名）（1回・60人）を実施した。
　シンポジウムは以下3回実施。
　・ICOM京都大会１周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」（9月26日、講演：京都市長　門川大作ほか）（1回・80人）
　・シンポジウム 文化財の防災・減災 ー火災・地震に対する取り組みー（10月25日、講演：文化庁文化資源活用課調査官　森井順之ほか）（1回・68人）
　・文化財保存修理所開所40周年記念シンポジウム 「文化財修理のいま、むかし」（12月19日、講演：文化庁文化財調査官　地主智彦ほか）（1回・100人）


夏期講座（講師：宮川禎一）

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア
・新型コロナウイルスの影響により、講演会等は定員を例年の200名から100名に減らして実施した。
・特別展期間中の講座を「記念講演会」として12回実施した。4・5月に予定していた「特別展　聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」関連の記念講演会は、会期の変更に伴い7・8・9月に日程を変更して実施した。
・土曜講座は大正時代から連綿と続く歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
講演会等の開催回数	23回	26回	－		45	32	37	28
講演会等の参加者数	2,107人	－	－		5,132	4,014	4,357	3,285

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新型コロナウイルスの影響により、講演会等は定員を例年の200名から100名に減らして実施したため、参加者は減少した。また、臨時休館や展覧会の会期変更等の影響で実施回数も減少したが、アルコール消毒の設置、座席の間隔をあける、換気を行うなど、感染症対策を行った上で可能な範囲で実施することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	2年度は新型コロナウイルスの影響により事業の縮小を余儀なくされたが、中期計画期間中を通して、これまでに培った運営や広報などのノウハウを生かし、他団体との協力関係を継続することで事業を実施し、中期計画を遂行できた。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1311B2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（京都国立博物館）
イ　京文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。
・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）等を発行する。
・京博ナビゲーターによるミニワークショップ等、文化財への一般の関心を高める体験型イベントを実施する。
・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。
・ハンズオン教材を設置し、京博ナビゲーターが常駐する「ミュージアム・カート」を展開する。
ウ　教育諸機関等との連携事業を推進する。
・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。
・京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内　４館連携協力協議会」での連携協力を図る。
・教員のための講座を開講する。
・他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
イ
・「姿から見つける、私の好きな観音さま」解説プリント（日本語10,000部・英語400部・中国語100部・韓国語100部）を発行した。
・「姿から見つける、私の好きな観音さま」七観音オリジナルぬりえ（7種類・40,000部）を発行した。
・特別展関連鑑賞ガイド「宮廷文化ことはじめ」（日本語56,000部・英語4,200部・中国語700部・韓国語700部）を発行した。
・特別展関連鑑賞ガイド「戒律と鑑真さん」（日本語45,000部・英語1,500部・中国語500部・韓国語500部）を発行した。
・子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」（1回・5,000部）を発行した。
・特別展関連おたのしみコーナー「姿から見つける、私の好きな観音さま」（46日・6,967人）を実施した。
・新型コロナウイルスの影響で中止となったワークショップ「姿から見つける、私の好きな観音さま」の一部を体験できる動画をウェブで公開した。
・「博物館Dictionary」（4回・8,000部）を発行した。
・「京博ナビゲーター活動記録　2014(平成26)～2020（令和2）年」（1回・2,000部）を発行した。
・名品ギャラリー　ジュニア版音声ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語　各24本）を作成した。
ウ
・「文化財に親しむ授業」（6回・304人）を実施した。
・複製を活用した授業への助言・当日の補助（3回・183人）を行った。
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（5回・315人）を行った。
・「記者体験in京都国立博物館」（京都市教育委員会主催）（1回・135人）に協力した。



おたのしみコーナー「姿から見つける、私の好きな観音さま」



特別展関連鑑賞ガイド「宮廷文化ことはじめ」

【補足事項】
イ
・新型コロナウイルスの影響により、ワークショップ、ミュージアム・カートは中止となった。
・新型コロナウイルスの影響により、「文化財に親しむ授業」や教員による複製を活用した授業、来館学校団体等への対応は一部中止となった。
ウ
・新型コロナウイルスの影響により、「京都市内 4館連携協力協議会」の連携事業、教員のための講座は中止となった。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
体験型プログラム等実施回数※	47回	－	－		553	467	482	429
体験型プログラム等参加者数	7,102人	－	－		21,333	282,014	47,198	94,743
スクールプログラム実施回数	5回	－	－	経	7	9	15	7
スクールプログラム参加者数	315人	－	－	年	344	93	120	328
文化財ソムリエによる訪問授業実施回数	6回	－	－	変	7	7	7	7
文化財ソムリエによる訪問授業参加者数	304人	－	－	化	931	626	537	683
教員を対象とした研修実施回数	0回	－	－		3	3	3	2
教員を対象とした研修参加者数	0人	－	－		106	92	84	68
印刷物	174,700部	－	－		41,300	116,000	53,500	35,000

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、全面的・部分的に中止となった活動が多くあったが、代わりに4言語（日・英・中・韓）での印刷物の発行やウェブサイトでの公開、動画の作成・公開、ジュニア版音声ガイドの作成・運用など、個人やオンラインで楽しむことのできる教育コンテンツを展開することができた。また、京博ナビゲーターの6年間の活動を記録・紹介する記録集も制作し、新型コロナウイルス終息後の活動に備えることができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通して、子ども向けの特集展示、特別展ワークショップやミュージアム・カートの資料の多言語化、ICOM関連イベントの実施、京博ナビゲーター活動記録の作成、オンラインでの教材の公開、ジュニア版音声ガイドの作成などを新規に実施し、中期計画を上回る成果をあげることができた。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。
注）一部のプログラムでは当該期間の入館者数で参加者をカウントしているため、それについては年度実績の合計値には含めない。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1311C1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（奈良国立博物館）
ア　講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。
・展覧会において親子を対象とした講座やワークショップを実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】
（４館共通）
ア 2年度は講演会等を12回実施した。
（奈良国立博物館）
ア 講座等の開催
・サンデートークは毎月第3日曜日に7回実施。計494人の参加があり、アンケート結果で平均満足度90％を得た。
・公開講座は1つの特別展及び3つの特別陳列の会期中に5回実施。計353人の参加があり、平均満足度91％を得た。
・夏季講座は「奈良国立博物館と仏教美術―コレクションと研究―」と題し、8月19日～21日の3日間実施を計画していたが、新型コロナウイルスの影響により中止した。
・正倉院学術シンポジウムは新型コロナウイルスの影響により開催しないこととした。
・特別陳列「お水取り」では、3年3月20日に学芸員の解説、展覧会の自由観覧、東大寺録事の講話及び東大寺二月堂にて現地解説会を行い39人の参加があった。
・文化財保存修理所の特別公開を3年1月8日に3回実施し、計70人の参加があった。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術―特集 神鹿の造形―」では、ワークショップ動画「工作ワークショップ　おうち de おん祭」をYoutubeならはくチャンネルにて無料で配信し、741回の再生回数があった。

【補足事項】



サンデートーク会場風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
講演会等の開催回数	12回	28回	C		26	26	27	25
講演会等の参加者数	847人	－	－		3,518	3,437	3,569	3,261

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス感染症の影響による講演会等の中止のため実施回数は目標を大きく下回ったが、再開後はサンデートークは月1回開催など例年と同じ開催頻度となっている。9月から講座を再開したが、感染症対策として定員を半分に縮小したため、元年度と比べ参加者数も大幅に減少した。しかし、検温・アルコール消毒・換気・ソーシャルディスタンス確保の徹底や、この機会に導入した講座の事前ウェブ申込システムは軌道に乗り、大きなトラブルも無く実施することができ、アンケートにみる満足度は高かった。さらに、動画配信を利用したワークショップなど新しい試みも実施できたことから左記の評定とした。なお、一方通行の配信のため、閲覧者の意見を聴取できない点は課題である。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
特別展等に関連した公開講座、当館研究員の多彩なテーマによるサンデートークを開催し、仏教美術のファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供できた。新型コロナウイルスの影響は大きくあったが、その中で対策を講じながら可能な限り実施した。また奈良教育大学との共催でワークショップの動画配信を行うなど、他機関と連携協力し新たな方法での学習機会を提供し、中期計画を遂行できたことから左記の評定とした。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1311C2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（奈良国立博物館）
イ　小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。
・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携してESD(持続発展教育)プログラムの開発を引き続き行う。
エ　地下回廊の学習端末機で名品のハイビジョン映像等を引き続き公開する。
オ　地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を引き続き公開する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
イ　新型コロナウイルスの影響により、世界遺産学習は全て中止となった。世界遺産学習が中止となった代わりに、3年度よりオンライン中継形式で世界遺産学習や学校プログラムを実施できるよう、なら仏像館内のWi-Fi環境を整備した。また、ボランティアがWeb会議アプリを利用できるように体制を整え、3年度以降、新たな実施形式で世界遺産学習を実施していけるよう準備を進めた。
イ　大分県商工観光労働部先端技術教育室と連携し、大分県大分市立判田中学校の中学2年生125名を対象に、遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラムを3年3月15日に実施した。
ウ　近畿ESDコンソーシアムが協力となり、奈良教育大学と連携し親子向けワークショップ「おうちdeおん祭」を会期中に2動画を配信し合計741回の再生回数があった。
エ　学習端末機は老朽化により撤去したが、特別展や特別陳列の開催時に展示品及び展覧会への理解を深めるため、関連する映像を上映した。
オ　引き続き地下回廊で仏像模型及びパネルを設置し、文化財に関する情報を公開した。

【補足事項】



大分県協力による遠隔操作ロボットを用いた授業の実施風景



「おうち de おん祭」の動画（一部）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
体験型プログラム等実施回数※	19回	－	－		21	26	28	33
体験型プログラム等参加者数	741人	－	－		384	399	436	363
スクールプログラム実施回数	0回	－	－	経	24	20	13	10
スクールプログラム参加者数	0人	－	－	年	1,701	1,001	747	833
職場体験実施回数	0回	－	－	変	3	3	1	1
職場体験参加者数	0人	－	－	化	7	6	3	3
世界遺産学習実施学校数	0校	－	－		25	32	26	24
世界遺産学習参加者数	0人	－	－		1,542	2,022	1,791	1,332
音声ガイド	405台	－	－		770	1,010	1,221	1,217

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、スクールプログラムや職場体験は中止となったが、近畿ESDコンソーシアムが協力となり、奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図る親子向けワークショップを行い、好評を得た。 また、大分県が所有する遠隔操作ロボットを用いて、展示案内プログラムを実施し、学習機会を提供することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、学校団体を対象としたプログラムや各種ワークショップ等を実施し、充実した内容の学習プログラムを提供することができた。2年度は新型コロナウイルスの影響で対面による事業は実施できなかったものの、ESDプログラムの一環として、奈良教育大学との連携により、親子向けの動画を制作し配信するなど、コロナ禍において新しい企画に取り組むことができた。以上から、中期計画を十分に達成できたと判断した。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（九州国立博物館）　※エ、オは後述
ア　特別展記念講演会を開催する。
イ　シンポジウムを開催する。
ウ　ミュージアムトークを継続的に実施する。
カ　文化交流展（平常展）に関連した教育普及事業を実施する。
　・夜間開館時にファミリー向けの教育普及事業を実施する。
キ　特別展に関連した教育普及事業を実施する。
ク　文化施設等へ講師を派遣する。
ケ　手話通訳付きミュージアムトークを開催したり、点字ガイドブックを作成するなど、障がいをもつ方にも展示を楽しんでもらえるような環境を整える。

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長　白井克也 課長　山野孝

【実績・成果】
（４館共通）
ア　新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、2年度は講演会を開催できなかった。
（九州国立博物館）
ア、イ　新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、2年度は特別展記念講演会及びシンポジウムを開催できなかった。
ウ　展示への理解や文化財の楽しみ方を促すことを目的として研究員によるミュージアムトーク（展示解説）を行った。新型コロナウイルスの影響のため10月まで中止となったが、その間、研究員による「文化財のミカタ」「文化財のヒミツ」としてウェブサイトからの動画配信を行った。（実施回数17回）11月から展示室内のシアターにて着席形式でミュージアムトークを再開した。（実施回数13回　参加人数308人）
カ
・絹織物に関するワークショップ「KURUKURU SILK」を1回行った。新型コロナウイルス感染予防対策のため、オンラインで実施。参加人数を8人に絞って募集した。蚕についての解説や収蔵品の紹介などの後、紡錘車で糸を紡ぐ体験を行った。紡錘車と絹織物の歴史を解説したあと、紡錘車を使って糸を紡ぎ、紡いだ糸でしおりを作る体験を行った。（参加数：6人）
・博物館でのマナーを周知するための動画を製作し、ウェブ上で公開したほか、博物館を紹介する小中学生向けの冊子を製作した。冊子は、当館の役割、建物の紹介、博物館と虫、文化交流展の楽しみ方などを紹介し、44校2,200人の生徒・児童に配布した。3年度以降も活用する予定である。
・特集展示「きゅーはくどうぶつえん」では、獣医と研究員による対談の様子を動画で撮影し、ウェブ上で公開した。
キ　新型コロナウイルスの影響により中止となった「古代エジプト展」では、展示室内にてミイラづくりの体験を行う予定であった。「ミイラづくりワークショップ」の実施については今後予定しており、視覚障がい者のための「ミイラづくりワークショップ」を古代オリエント博物館と共同開発した。
　「よみがえる正倉院宝物」展では、制作者の声と道具を紹介するコーナーを作るため、制作者にインタビューを行った。
ク　特別展「古代エジプト展」「奈良・中宮寺の国宝」において筑紫野市歴史博物館に講師を派遣予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止した。
ケ
・多様な方が博物館を楽しめるように手話通訳付きバックヤードツアーをリモートで実施した。参加者24人中18人が県外からの参加、移動を伴わないため、各地から気軽に参加できる利点が顕著に表れた。聴覚障がいの方の参加は4名であった。九博ボランティアの手話通訳がわかりやすいとの感想もあった。
・点字付きチラシや点字付きガイドブック（銅印「大宰之印」）を作製し、展示室内での配布に加えて福祉団体や特別支援学校等へ送付した。また、修学旅行で来館した視覚特別支援学校の生徒にレプリカをさわる体験と合わせて活用し、より文化財への理解を深める活動につながった。


手話通訳付きリモートバックヤードツアー

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
講演会等の開催回数	13回	90回			77	84	80	69
講演会等の参加者数	308人	－	－		5,369	6,299	4,491	4,862

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの流行により、年度当初に2か月間の休館期間があり、特別展も4企画中3企画が中止、延期となり、イベント等の開催にも様々な制約が課せられた。講演会等の開催回数自体は減少したが、博物館の魅力を幅広い層に伝えるための動画配信など、新たな試みを行った。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、ワークショップ等の学習機会の提供ができたことから、中期計画は概ね達成できたと考える。 新型コロナウイルスの流行により、2年度は中止となったイベントもあったがオンラインによる文化財の魅力発信等や手話通訳付リモートバックヤードツアーを実施し、次期中期につながる新たな事業展開ができた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
エ　博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。

担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長　山野孝 課長　白井克也

【実績・成果】
（九州国立博物館）
エ
・体験型展示室「あじっぱ」では、9月から一部を開室した。しかし、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、展示物に触れることはできない状況であったため、「おうちdeあじっぱ」の名称で持ち帰りキットを準備した。
・各種ワークショップを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から全て中止となった。しかし、これまで実施してきたワークショップや体験型展示室「あじっぱ」のコンテンツをまとめた「おうちdeきゅーはく」をホームページで公開することで、館内のイベントやワークショップの代わりとなる活動ができた。（掲載数：15コンテンツ）



おうち de あじっぱ

・11月から「きゅーはくきゃらばん」の名称でアウトリーチ活動を積極的に展開し、子ども達を中心に幅広い層に向けた体験活動の機会を提供した。
・「あじっぱ」では、アジア諸国の生活・文化を展示紹介するとともに、日本の伝統文化を知ってもらうコンテンツも準備し、異文化間の相互理解を促進する場を提供した。

【補足事業】
・体験型展示室「あじっぱ」が閉室している期間に、「おうちdeきゅーはく」用に体験型展示室あじっぱ関連の動画を4本と塗り絵を制作した
・アウトリーチ活動「きゅーはくきゃらばん」を9回実施し、当館所有の体験型コンテンツや新規に開発したプログラムを提供した。実施先は県内の博物館のほか、学校や大型商業施設など多岐にわたり、そのうち4回は移動博物館車「きゅーはく号」を活用して、レプリカの触察体験や民族楽器体験等を行った。
・あじっぱ入口横ディスプレイとあじ庵で特集展示を行った。（「音のつながり」「インドネシア」「ひなまつり」）


きゅーはく号でのワークショップ



おうち de きゅーはく

・あじっぱ内では、7回の展示替を実施した。（「象とタイの人々」「ミャンマーで遊ぼう」「厄を払って、来年こそは」など）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
体験型プログラム等実施回数※	185回	－	－		2,143	2,041	1,873	1,933
体験型プログラム等参加者数	499人	－	－		7,796	8,651	4,914	4,047

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
例年行っている各種ワークショップに関しては、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から行うことができなかったが、動画や「あじっぱ」での持ち帰りキットの提供、「きゅーはくきゃらばん」における「きゅーはく号」の積極的な活用により、幅広い層に向けて体験型コンテンツを提供することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画最終年度である2年度は、5年間を総括する取組を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により学習機会の提供や他館との連携協力の機会が減少した。しかし、アウトリーチ活動や持ち帰りキット活用等により学習機会の提供を継続できたことから年度計画を達成できたと考える。
今後は、非接触型の学習機会の提供など、コロナ禍に対応したプログラムの開発も考えたい。また、他館との合同ワークショップやアウトリーチ活動を通じて他館との連携協力を図りながら、県内外の多くの子ども達に学習機会を提供したい。

※28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1311D3

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
オ　学校教育との連携事業を実施する。・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。
・移動博物館車「きゅーはく号」の活用により、きゅーはくきゃらばん(移動博物館事業)の活動の充実を図る。
・福岡県教育委員会及び（公財）九州国立博物館振興財団と連携して、小中学校を招き、様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業を実施する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　山野　孝

【実績・成果】
・大牟田市立宮原中学校からの依頼により「江戸幕府初期の支配体制の確立」の授業へ研究員を派遣した。(12月2日実施 参加人数33人)
・富山県小矢部市立蟹谷中学校より依頼があり、「元寇」についてリモート授業を3回実施した。1回目は文化交流展示室から研究員が「てつはう」などの文化財の解説を行い、2・3回目はその際に生じた生徒の質問に答える形で授業を行った。(12月21日、3年1月28日、2月8日 参加人数26人)
・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」は41件・56パックを貸し出し、4,060人の児童生徒が体験した。


学校での博物館
ガイダンスの様子


文化交流展示室での
リモート授業の様子

・学校が当館を利用しやすくするために、博物館の概要や学校団体に推奨するプログラムをまとめた「学校利用ガイド」を作成した。
・新型コロナウイルスの影響により2年度の学校教育活動支援事業は全面中止となったが、来館予定であった学校に職員が直接出向き、博物館ガイダンスや当館所有のワークショップを行った。実施先の中には移動博物館車「きゅーはく号」を活用したワークショップを行った学校もあった。

【補足事項】
・富山県小矢部市立蟹谷中学校とのリモート授業では、展示室から画面越しに実物を見ながら解説をすることができ、質問等にもすぐに応じることができるため、臨場感のある展開となった。後日の生徒のアンケートには「実物を見に行きたい」「歴史にさらに興味がもてた」などの内容が多く、概ね好評であった。
・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」については、破損して使えなくなっていた資料を補修・補充するとともに、新しく「始めよう！水稲耕作」パックを制作し、3年度以降新たに貸出を開始する予定である。また、元年度制作した「実践！勘合貿易」は視覚障がい者にも対応して制作しているが、授業でさらに使いやすいものとするために視覚特別支援学校教諭から助言をいただき、改良した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
学校教育活動支援事業実施回数	0校	－	－		18	27	47	40
学校教育活動支援事業参加者数	0人	－	－		625	1,612	3,452	2,530
出前講座実施回数	4回	－	－		6	6	5	5
出前講座参加者数	59人	－	－		179	104	151	214
職場体験等の実施回数	0校	－	－		17	20	18	17
職場体験等の参加者数	0人	－	－		87	92	93	87
教員を対象とした研修実施回数	0回	－	－		4	4	3	1
教員を対象とした研修参加者数	0人	－	－		73	25	25	13
「きゅうぱっく」貸出件数	41件	－	－		47	33	40	56
印刷物	2,200部	－	－		145,000	―	20,000	120,000

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、館内で行う学校教育活動支援事業、職場体験等、学校との様々な連携事業が中止となったが、博物館職員が直接学校まで出向く機会も増えたことで、多くの職員が児童生徒と直接触れ合うことができた。それぞれの見地から博物館の魅力を紹介できたことで学校側からも概ね好評であった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
2年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点より、10人以上の団体に対し入館制限を行ったため、館内での博学連携事業はできなかった。しかし、それ以外の事業については、件数は例年より少ないものの実施できた。したがって、中期期間を通し、講座やワークショップなど学習機会を提供できたことから、中期計画を遂行できたといえる。次期中期においては既存の学校連携事業の内容を抜本的に見直し、新型コロナウイルス流行下に対応したプログラム（オンラインでの博物館ガイダンス、ガイドツアー等）を検討・開発することが必要である。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1312A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　館内案内、各種事業の補助活動等の充実を図る。
イ　点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を継続して実施する。
ウ　自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
エ　スクールプログラムの一部をボランティアにより実施する。
オ　ボランティアデー等、ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
ア　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館者への対面での活動は全て中止したが、代わりに9月からボランティア活動室等で個人やグループで自主的に学習ができるように支援し、その際の感染防止対策に努めた。また、ボランティアにオンライン機器利用の研修を行った。
　スクールプログラム班・イベント班は博物館教育課で作成したオンラインプログラムの視聴と感想の提出を行った。ワークショップ班は、オンラインワークショップの事前トライアルに参加した。


オンライン機器利用研修会

イ　点字パンフレットの改訂、印刷、盲学校対応プログラムの準備及び実施、通年でバリアフリー対応班への情報発信による研修を行った。
ウ　自主企画グループの学習機会提供のため、ボランティア活動室を使用した勉強会の実施等を行った。
エ　対面でのスクールプログラムが中止された代わりに、オンラインプログラムの視聴と感想の提出を行った。
オ　定期的にボランティア執筆の投稿冊子を編集・発行した。また、ボランティアデー中止の代わりとして、「誌上ボランティアデー」の冊子を発行した。オンライン動画「ボランティア活動紹介」及び、ボランティア自主企画グループの協力による「ボランティア自主企画グループ活動紹介」を作成した。

【補足事項】
　新型コロナウイルスの影響を勘案し、新規ボランティアの採用を延期、東京藝術大学大学院インターンの受け入れを中止した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ボランティアの受入人数	102人	－	－		169	151	149	159

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響で、来館者に向けたボランティア活動が実施できなかったが、代わりにオンラインのボランティア研修や、オンライン動画の作成、動画視聴等による活動など、リモートでの新しい活動形態を新たに実施することができた。

【中期計画記載事項】
　教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画期間全体を通してボランティアの安全を守りつつ、ボランティアのやりがいや生涯学習を支援することができた。また、オンライン等の新たな取り組みの実施により、次期中期に向けた新しい活動形態の可能性を広げることができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）活動の充実を図るとともに、第３期京博ナビゲーターを募集し、活動を開始する。
イ　調査・研究補助ボランティアを受け入れ、調査研究事業の充実を図る。
ウ　文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
エ「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア　京博ナビゲーター（198人）のうち、72人が『京博ナビゲーター活動記録　2014(平成26)～2020（令和2）年』（京博ナビゲーター・他館の教育普及関係者等に配付）に活動中のエピソードを投稿した。
イ　収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。（23人）
ウ
・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。（20回）
・文化財ソムリエ（18人）が以下の活動を行った
①京都市内の小中学校への訪問授業「文化財に親しむ授業」（6回・304人）
②記者体験in京都国立博物館（1回・135人）
エ　「京都・らくご博物館」において、落語研究会所属の大学生をボランティアとして起用することを計画していたが、新型コロナウイルスの影響により、大学側が課外活動を制限しておりできなかった。


文化財ソムリエを対象としたスクーリング


記者体験 in 京都国立博物館

【補足事項】
ア　新型コロナウイルスの影響により、第2期京博ナビゲーターの任期を当初予定の6月末から9月末まで延長したが、ワークショップ、ミュージアム・カートでの活動、研修会、感謝会は全て中止となった。また第3期ナビゲーターの募集説明会を4月に実施予定であったが、資料の配布（博物館南門、ウェブサイト）に変更した。その後、感染拡大のため面談選考を中止し、京博ナビゲーターの事業自体も停止とした。
ウ
・文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（18名）に対して、当館研究員がスクーリング20回を実施した。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。小中学校への訪問授業の際には、学校と連携し感染症対策を取りながら行った。新型コロナウイルスの影響により、訪問校は当初の7校から6校となり、実施時期も後ろ倒しとなった。
・「文化財に親しむ授業」の実施回数に限度があることから、授業を希望する学校に複製品を貸出、先生が授業を行うための支援も行っている。（3回・183人）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ボランティアの受入人数	239人	－	－		215	270	264	255

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、京博ナビゲーターの館内での活動は全て中止となり、7月から新たに活動予定であった第3期ナビゲーターについても募集中断となった。代わりの活動として、第2期京博ナビゲーターは、6年間の活動を振り返る記録集へのエピソード投稿を行った。文化財ソムリエについては、学校からの要望に基づき活動を継続したが、当初予定より実施校が減るなどの影響があった。
全体的に当初計画よりも事業規模が縮小したが、代替活動や、感染症対策を取りながらの活動など、可能な範囲内での教育活動を行うことができた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
2年度は新型コロナウイルスの影響により活動が縮小した。しかし今中期計画期間を通して、「京博ナビゲーター」に関しては、新規事業としてミュージアム・カートへの教材追加、資料の多言語化、ポータルサイトの運用開始、論文や記録集の作成・公開を行い、「文化財ソムリエ」に関しては、高精細複製の教材追加、近隣他県への複製貸出、ICOM関連イベントの実施等を新たに行い、中期計画を上回る成果をあげることができた。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1312C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　ボランティア新制度３期目の３年目として、ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の円滑化を図る。
イ　ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。
ウ　勉強会等により、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
エ　ボランティアが実施するガイドツアー等のプログラムの支援を行う。

担当部課	ボランティア室	事業責任者	ボランティア室長　谷口耕生

【実績・成果】
ア　新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2月下旬より約半年間活動を全面的に休止していたが、リモート形式で行える3種の活動（①動画の制作、②ワークシートの制作、③ボランティア通信誌の制作）を新たに設定し、9月より実施した。主にグループウェアシステムとウェブ会議システムを利用し、3種の活動を展開した。なお3種の活動をテーマ別にさらに細分化し、解説グループには計7つ、世界遺産グループには計5つ、サポートグループには計4つとグループ別に活動テーマを割り当てる形で計16種類の活動を行った。リモート形式で活動を行っていくにあたり、活動者は有志を募る形式とし、それぞれのグループの活動者数は、解説グループ42人、世界遺産グループ39人、サポートグループ38人となった。3年3月頃に動画やワークシート、ボランティア通信誌の完成を目指し活動を進めている。
イ　特別展「第72回正倉院展」に関連する研修を、ボランティア向けにウェブ会議システムを利用して10月29日に実施した。参加者は計74人となった。
ウ　グループ内で活動テーマ別に少人数のチームを編成し、グループウェアシステムやウェブ会議システムを利用しミーティングを行った。また、リモート形式による活動を開始してから毎月1回、活動の進捗状況をボランティアと職員で確認する活動進捗報告会を実施した。
エ　動画の制作活動では、作品等を案内するシナリオをボランティアが作成し、館の職員が監修を行う形で活動を進めた。加えてワークシートの制作活動においても、ボランティアが内容や構成を考案・作成し、館の職員が監修を行った。

【補足事項】
ア
・ボランティア活動にウェブ会議システムを活用していくにあたり、ボランティア全員を対象にウェブ会議システムの接続テストを8月30日・31日の2日間に分けて実施した。（参加者：計127人）
・9月6日・7日にボランティア全員を対象に、9月より実施する活動等についての説明会を実施した。説明会はウェブ会議システムを利用して行った。（参加者:計132人）
・9月13・16日に、9月より実施する活動の詳細や方法についての説明会をグループ別に実施した。（参加者：解説グループ50人、世界遺産グループ39人、サポートグループ39人）


ボランティア全体向けの説明会の実施風景(9月6日)

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ボランティアの受入人数	143人	－	－		150	143	159	150

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響により、対面形式での活動が困難になったことに伴い、それに代わるリモート形式による活動を展開することとなったが、動画の制作やワークシートの制作など、グループ別に新たな活動に取り組むことができた。また、グループウェアシステムやウェブ会議システムを活用した新たな活動スタイルを構築し、それにより当初計画の研修やボランティア同士でのミーティングなども行うことができた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画期間を通し、ボランティア対象の研修やボランティア同士の勉強会を数多く行い、ボランティアの解説の資質向上に努めた。また、それらの学習を生かし、ツアー解説や案内ガイド等、充実したプログラムを実施することができた。2年度は対面形式での活動が困難になったものの、リモート形式により、動画やワークシートの制作など新たな活動の展開を図った。コロナ禍においても活動を継続的に実施していくことにより、教育普及活動をより充実させるとともに、生涯学習活動に寄与する等、中期計画を予定通り遂行できた。また次期中期においてはリモート形式で行える活動の更なる拡充を図り、将来的に学校とオンライン中継でつなぎ、リモート形式での案内活動を実施できるようにするなど、新しい取り組みを実施していく予定である。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1312D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　ボランティア各部会の活動の充実を図る。
イ　令和元年度新規募集した第6期ボランティアの活動をスタートさせる。
ウ　ボランティアの企画立案によるワークショップ等のプログラムの充実を図る。
エ　学校教育活動支援事業の学習プログラムの一部をボランティアにより実施する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　山野孝

【実績・成果】
ア　新型コロナウイルス感染予防対策のため、全体としての活動は休止となったが、各部会が独自に活動できるための支援を行い、活動に対するモチベーションの維持に努めた。
①　「ボランティア通信」を発行し、活動再開後に役立つ情報を発信した。また、その中でボランティアに投稿の場を設けた。
②　「ボランティアハンドブック」を全面改訂し、ボランティアとしての心構えや、留意事項をより分かりやすくイメージできるようにした。また、活動における新型コロナウイルス感染予防対策についても併記した。
③　展示解説部会に対して、毎月の展示替えスケジュールやフロアマップの情報を提供した。部会員は定期的に展示室を訪れ、活動再開後の案内シミュレーションを行った。
④　手話部会に対して「手話通訳付きリモートバックヤードツアー」の手話通訳を依頼した。部会員と企画した職員との打合せを重ね、より伝わる通訳の仕方について意見交換ができたことで、当日のイベント参加者からは手話通訳がわかりやすかったと非常に好評であった。



ボランティア通信「YELL」

イ　第6期ボランティア(198人)が活動予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策のため、2年度は受け入れを中止した。その間、ボランティアとしてのモチベーションの維持と、活動開始に向けた自主学習用資料として、「九博概要」や「ボランティアハンドブック」を送付した。
ウ　活動の休止に伴い、ボランティアの企画立案によるワークショップは開催できなかったが、ボランティアコーディネーターや教育普及担当職員が考案したペーパークラフト（「きゅーはく号」、「赤べこ」等)」を送付し、再開後のワークショップの内容に対する意見を募った。
エ　活動の休止に伴い事業そのものが中止となったが、担当するスクールプログラム班のメンバーには、職員が作成した博物館ガイダンスを自主学習用資料として送付した。



ボランティアハンドブック

【補足事項】
・2年度は第5期ボランティア（127人）と第6期ボランティア(198人)が活動予定であった。
・活動休止中は、今後のボランティア活動の在り方について全員にアンケートを取り、その結果も参考にして新型コロナウイルス流行下の活動方針を検討した。また、同時に各自の動画視聴環境に関するアンケートも取り、今後の研修及び活動のオンライン化の準備を進めた。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ボランティアの受入人数	325人	－	－		307	313	295	274

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響により全ての活動が休止となり年度計画は達成できなかったが、活動再開を見据え、開館当初からの活動内容を抜本的に見直し、新型コロナウイルス流行下における新しい活動様式を検討することができた。 今後は、その様式を全ボランティアに対して周知する方法を検討し、実践するための体制をボランティアコーディネーターと共に整えていきたい。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2年度は、中期計画最終年度としてボランティアの育成に取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策の観点より、年度内の活動を全面休止とした。しかしながら、今後の活動の再開を見据え、部会員と案内のシミュレーションやワークショップの検討を行うことができた。したがって、今中期計画期間を通し、来館者のサービス向上へつながる活動等ができたことから、中期計画を達成できたと考える。 次期中期においては、活動が再開となるまでは、現在の取り組みを継続し、リモートや動画配信といったオンラインでの活動もほかの国立博物館の例を参考にしながら検討していきたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1313A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズを対象とした「博物館講座」、「博物館セミナー」を実施する。
イ　東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　伊藤信二

【実績・成果】
（４館共通）
ア 加入校数 61 校（内訳 法人：3、大学：50、専門学校：2、学部：6）が本制度を利用し、8,532 人の学生、328 人の教員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、事前予約（日時指定券）制導入のため中止した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップの募集を予定していたが、2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
（東京国立博物館）
ア キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の運営、教育普及活動、国際交流、文化財活用等について取り扱った「博物館セミナー」、また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般について「博物館学講座」の開催を予定していたが、2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
イ インターンシップやギャラリートークを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
キャンパスメンバーズ加入大学数	61校	－	－	経年変化	52	53	56	60
インターンシップ参加者数	－人	－	－		22	26	22	22
見学対応実施回数	－回	－	－		14	22	13	18
見学対応参加者数	－人	－	－		480	571	482	374
その他事業実施回数	－回	－	－		1	1	1	1
その他事業参加者数	－人	－	－		36	27	88	166

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症流行のため、当初予定していた活動が制限されたが、キャンパスメンバーズの加入については引き続き募集を続け、新たに1校が加入した。 今後も積極的に活動し、大学との連携を深めていきたい。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度は中期計画の最終年度としてインターンシップやセミナー等、大学との連携事業を引き続き行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症流行のため、活動が大幅に制限されたものの、今中期全体を通して、継続してインターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与した。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1313B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（4 館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（京都国立博物館）
ア　連携協力協定に基づき京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 上席研究員　淺湫毅

【実績・成果】
（4 館共通）
ア　キャンパスメンバーズ制度を継続し、大学等との連携を図った。加入校増加に向けた営業の結果、新規に1校が加入した。会員を主な対象とした講演会を、特別展・特別企画にあわせて実施した。
（京都国立博物館）
ア　京都大学との連携の一環で同大学院人間・環境学研究科の客員教員として、尾野善裕（考古・陶磁）、山川曉（染織）、淺湫毅（彫刻）、大原嘉豊（宗教絵画）、永島明子（漆工）の 5 人が大学院生（修士・博士課程在籍者）に対して、主にリモート授業（例年は博物館において対面式で実際の作品をもとに行う）で、文化財をテーマに講義を行った。受講学生は 11 人（延べ 13 人）である。また、所属する修士課程 3 人・博士課程 2 人（うち 1 人は休学中）の学生については、論文作成等の指導を対面及びリモートで適宜行った。

【補足事項】
（4館共通）
ア
・新型コロナウイルスの影響により、キャンパスメンバーズ講演会は定員を100名に制限して以下の2回開催した。
・「特別展『皇室の名宝』キャンパスメンバーズ講演会」（10月23日　講師：企画室長　山川曉）（1回・62人）
・新型コロナウイルスの影響により、特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」キャンパスメンバーズ講演会（4月24日　講師：美術室長　羽田聡）は中止したため、代わりに特別企画「文化財修理の最先端」キャンパスメンバーズ講演会（12月23日　講師：保存修理指導室長　大原嘉豊）（1回・80人）を行った。



キャンパスメンバーズ講演会

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
キャンパスメンバーズ加入大学数※	33校	－	－		27	29	32	32
インターンシップ参加者数	0人	－	－	経	3	2	1	2
連携講座参加者数	11人	－	－	年	6	6	6	6
見学対応実施回数	0回	－	－	変	2	3	1	2
見学対応参加者数	0人	－	－	化	35	40	25	42
その他事業実施回数	0回	－	－		22	22	23	23
その他事業参加者数	0人	－	－		52	27	349	349

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズについては、より多くの対象者に利用してもらえるよう広報活動に力を入れ、新規に1校が加入した。 京都大学との連携講座である人間・環境学研究科の大学院生への講義に関しては、2年度はリモート授業のため、例年のように実際の文化財を用いた教育は実施できなかったが、そのかわりに実物の写真等を通じて、博物館ならではの研究指導を行った。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズは加入校数が順調に増えており、安定して大学等との連携ができている。また、キャンパスメンバーズを対象とした講演会を行う等、中期計画期間を通して人材育成に寄与しており、中期計画を達成できた。 京都大学連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財に関わる人材育成に貢献していくこととする。

※奈良国立博物館との共通加入校含む

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象）。
イ　大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズへの入会の勧誘及び更新を積極的に進めてきた結果、2年度までで入会校数は28校となり、加入大学とは連携を継続した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップについては感染症対策のため大学より中止の連絡があり実施していない。
（奈良国立博物館）
ア
・奈良女子大学大学院人間文化研究科の連携講座（比較文化学専攻）に学芸部研究員1人を派遣し、日本古典文化資料論の講義を行った。受講生は前期1人、後期1人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座（文化資源論講座）に学芸部研究員2人を派遣し、博士論文１本の審査を行った。
イ　特別授業については感染症対策のため実施していない。

【補足事項】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し親子向けワークショップ「おうちdeおん祭」を会期中に2動画を配信し合計741回の再生回数があった。





ワークショップ動画「おうち de おん祭」

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
キャンパスメンバーズ加入大学数※	28校	－	－		25	27	28	27
インターンシップ参加者数	0人	－	－		3	2	0	0
連携講座参加者数	3人	－	－		10	12	8	11

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度に引き続き、キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図る親子向けワークショップを行い、好評を得た。また、神戸大学とも連携し、専門分野の人材育成に寄与した。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズである大学との連携事業等、大学の教育プログラムとして毎年実績を重ねることにより、歴史・伝統文化を発信する教育者の人材育成に貢献することができ、中期計画を達成できたと評価できる。また、キャンパスメンバーズ制度については、若年層へ来館を促すためにも、引き続き内容の充実を図りたい。

※京都国立博物館との共通加入校を含む。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1313D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（九州国立博物館）
ア　大学生の博物館実習の受け入れを実施する。
イ　放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　山野孝 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　文化財保存修復施設を利用して地域大学との連携を図る短期インターンシップは実施を中止した。
（九州国立博物館）
ア　博物館実習生を14大学19人、計5日間受け入れた。（うちキャンパスメンバーズ校は5大学9人）
イ　放送大学の面接授業は、実施を中止した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　大学等との連携を継続するため、2年度も募集・実施し、3校が新規加入した。また、各教育機関が継続して加入した。（2年度加入校内訳：大学11校、短期大学3校、専門学校1校、高等学校6校）
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を予定していたが、2年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から実施を中止した。
（九州国立博物館）
ア　博物館実習
・実習実施期間：8月19日～23日（5日間）（合計14大学19人）
・実習内容：博物館の各機能に関するレクチャー、実習（来館者対応、学芸員体験、体験型展示室「あじっぱ」用工作キット製作・展示プラン作成）を行った。2年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、日程を10日間から5日間に短縮し、講義場所を研修室からミュージアムホールに変更するなどの処置をとって実施した。
イ　放送大学の面接授業は、2年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から実施を中止した。


博物館実習
（文化財修理についての講義風景）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
キャンパスメンバーズ加入大学数	21校	－	－	経年変化	25	25	23	23
インターンシップ参加者数	0人	－	－		4	3	8	8
見学対応実施回数	0回	－	－		6	3	3	2
見学対応参加者数	0人	－	－		243	140	140	44
その他事業実施回数	2回	－	－		11	8	14	13
その他事業参加者数	84人	－	－		136	105	264	250

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、2年度はいくつかの継続事業を中止した。しかし、博物館実習では14大学から19人の博物館実習生を受け入れ、館内各部門と連携・協力しながら5日間の実習を実施できた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度は新型コロナウイルスの影響により中期計画に変更はあったものの、当館が対応でき得る適切な数の実習生・研修生の受入を行うことができた。また、今中期期間を通して、大学と連携し、人材育成に寄与できたことから、中期計画を達成できたと考える。 次期中期においても引き続き、広報周知を行い、大学との連携事業を推進していきたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1314A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長　冨坂賢

【実績・成果】
・大学院で文化財保存や修復を学んでいる学生を対象にしたインターンの受け入れ予定であったが、2年度は新型コロナウイルス拡大防止の観点から実施を中止した。しかし、NPO-JCPとの共催である「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を画像配信による講義形態で開催し85名の受講者があった。
その他、当課が管理する保存修復施設への視察・見学として、国内外の文化財保存学の専攻課程を持つ大学・大学院や博物館関連施設の見学も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行わなかった。

【補足事項】
「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を画像配信について。

■ **講 義 形 態：** オンデマンド
■ **配 信 媒 体：** クラストリーム【申込者にログインIDとパスワードと講義視聴URLを配布】
■**受 講 時 間 数 ：** 全21コマ（1コマ60分程度）
■**配 信 期 間 ：** Ⅰ．11月2日(月)～2月14日(日)



配信の様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
保存修理事業者を対象とした研修会				経				
開催日数	1回	－	－	年	1	3	3	1
参加者数	85人	－	－	変	23	39	29	14
インターン受入人数	0人	－	－	化	4	2	2	1
大学院生のための研修会参加人数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 緊急事態宣言が発令されたため事業を行う事が困難である中で、オンデマンドによりNPO-JCPの講義を継続できたことは評価できる。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 大学院生を対象にしたインターン事業において、修了者の中から数人が文化財修理工房や文化財研究所に就職するなど、現在もインターンでの経験を活かして活動している。この事から当事業の有効性は評価できる。しかし、新型コロナウイルス拡大により対面、共同作業が困難となる事は想定していなかった。今後は来館による実施とリモートや配信などの併用で研修効果を高める方法を模索検討する。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1314B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（4館共通）
　保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
・例年は文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行っていたが、新型コロナウイルスの影響により4月、5月、7月、9月、3年1月、3年3月は中止とし、保存修理指導室員のみによる監督指導にとどめた。また、2か月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。場所は新型コロナウイルス感染予防のため、文化財保存修理所応接室から事務棟4F大会議室に変更した。（巡回1回、会議7回）
・当館開催の特別展覧会と特別企画において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。（計4回・249人）
　特別展「聖地をたずねて西国三十三所の信仰と至宝」（7月23日・41人）
　特別展「皇室の名宝」（10月10日・87人）
　特別企画「文化財修理の最先端」（3年1月18日・60人）
　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（3年3月29日・61人）
・新型コロナウイルスの影響により、インターンシップ及び大学院生のための研修会は中止となったが、代替措置として、次に記載する特別企画とシンポジウムの案内を行い、図録を参加各行に参考資料として献本し、人材育成に寄与した。
・12月19日より文化財保存修理所40周年記念特別企画「文化財修理の最先端」を開催した。併せて12月19日にシンポジウム「文化財修理のいま、むかし」を、新型コロナウイルス感染予防のため参加人数を制限して開催した（参加者：100人）。
・博物館における、保存科学、修復の専門家等による文化財存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。
　以下、視察の件数及び人数
　　京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課美術工芸品担当技師、京都市環境政策局循環型社会推進部ごみ減量推進課廃棄物企画係(6 月 1 日・4 人)他 19 回 59 人。

【補足事項】



「文化財修理の最先端」図録

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
保存修理事業者を対象とした研修会				経				
開催回数	4回	－	－	年	2	2	2	2
参加人数	249人	－	－	変	96	129	113	112
インターン受入人数	0人	－	－	化	3	2	1	2
大学院生のための研修会参加人数	0人	－	－		13	9	11	15

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 　新型コロナウイルスの影響はあったが、規模の変更等で対応し、所定の事業は概ね実施できた。インターンシップと研修会は中止を余儀なくされたが、特にインターンシップは開始10年を経て実施方式の変更が主催者間で検討されていたところであり、文化財保存修理所40周年記念特別企画「文化財修理の最先端」を代替の教育機会として活用頂くよう案内するなどの柔軟な対応により、計画を達成することができた。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 　2年度は対外的な人的接触を伴う事業以外は規模の変更等で対応、実施した。特に文化財保存修理所開所40周年を記念した特別企画やシンポジウムの実施は、保存修理従事者の協力を得て開催できたものであり、また、修理所における文化財修理の実績とその成果を広く公開する事業として最終年度にふさわしいものとなった。したがって、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、中期計画を超える成果となったと判断した。

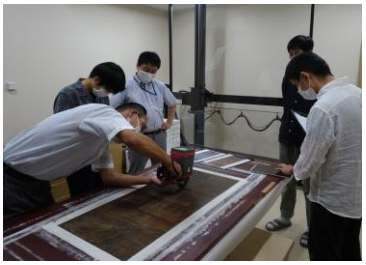
【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1314C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（４館共通）
・保存修理技術者に対する研修会は新型コロナウイルス感染防止の観点から今年度は実施しなかった。
・新型コロナウイルス感染防止の観点並びに海外修理技術者の来日中止のため、2年度は視察の受け入れはなかった。
・修理に関しての助言や修理に伴っての科学調査を保存修理技術者と連携を図りながら実施した。さらに、修理所修理報告書にて当館修理所で修理した成果を公表し、データベースの整備なども随時行った。修理所修理報告書は2年度第2号及び第3号を刊行した。X線CT調査や蛍光X線分析を共同で行っており、得られた結果を一緒に検討することで修理へフィードバックしている。



保存修理技術者と共同での科学調査

【補足事項】
・文化財保存修理所技術者研修会
3年1月末に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策により、2年度は中止とし、3年度に延期することとなった。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催日数	0回	－	－		4	8	7	3
参加者数	0人	－	－		51	77	62	52

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
視察の回数や人数は年により増減があるが、2年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から海外専門家の文化財保存修理所見学を行っていない。海外から修理技術者が以前のように往来できるようになった際には、日本美術の修理技術や修理の考え方を広く伝えるため見学を継続して取り組みたい。
対人の人材育成機会創出は困難であったが、問い合わせの対応や修正報告書による成果公表、データベース化などにより外部の保存修理従事者が情報を取得いただける環境は例年通り整えており、人材育成に寄与できたと考えられる。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
元年度までは海外修理技術者の視察受け入れや修理所修理技術者の研修会を行ってきたが、2年度は新型コロナウイスル感染防止の観点から技術者と海外の専門家との交流を行うことができなかった。保存修理所技術者研修会では、修理所内の各工房に在籍する技術者間で毎回活発な議論が交わされており、交流が図られている。
2年度は感染防止のため前年までのようには実施ができなかったが、文化財の保存・修理に関する人材育成には十分寄与できており、中期計画を達成できたと言える。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1314D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
・文化財保存についての普及のための講座・研修を開催予定であったが、2年度は新型コロナウイルス拡大防止の観点から実施を中止したものが多い。

【補足事項】
・「文化財保存修復研修」
協力者：一般社団法人国宝修理装潢師連盟
九州・中国地方の大学・大学院で文化財保存修復を学ぶ学生を対象に、屏風の下張り製作体験を通じて装潢修復技術を学ぶ機会を提供し、文化財や保存修復への理解を深めてもらう研修を 7～8 月頃（5 日間）に開催予定であったが、実習が主であるため、2 年度は新型コロナウイルス感染予防対策の観点から実施を中止した。
・「古文書保存基礎講座」
協力者：修理工房宰匠（株）
当館、福岡県教育委員会、筑紫野市歴史博物館の三者共催事業として、地方行政及び博物館等施設における古文書資料の担当者 20 人程度を対象に、古文書の調査・保管や応急手当についての研修を例年開催している。2 年度は 3 年 1 月（2 日間）に開催を予定していたが、上記と同様、本研修も実習が主であり至近距離での実技になってしまうため、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から実施を中止した。講座と合わせて実施予定だった寒糊炊き（古糊作り）は、当館修復施設を使用する修理工房宰匠（株）と館内職員のみで行った。
・「寒糊炊き」
協力者：修理工房宰匠（株）
装こう文化財の修理に必要不可欠な古糊（小麦澱粉糊（新糊）を涼暗所で約 10 年間寝かせ、接着力を弱めた糊）の元になる新糊を炊く作業を通して文化財修理の意義を知っていただく機会として、毎年、古文書保存基礎講座と同時に開催している。作業は屋外でテントを張って実施した。また、今回は参加者を館内職員に限定し、手袋をするなど新型コロナウイルス感染予防対策を十分取った上で実施した。


寒糊炊き

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
保存修理事業者を対象とした研修会				経年変化				
開催回数	0回	－	－		6	9	8	7
参加者数	0人	－	－		473	533	292	260
インターン受入人数	0人	－	－		－	3	8	8

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、2年度は事業を中止したものが多い。例年行っている実習は、感染対策のため職員限定で行う等できる範囲で実施した。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通し、地元の大学や地元自治体と連携し、保存科学、修理技術に関する実習等を行ってきた。2年度は新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、実技を主とする研修事業は中止したものが多い。しかし、新型コロナウイルスについて考慮し、屋外で人数を絞って寒糊炊きを行うなどの工夫をこらし、中期計画を達成したと考える。 次期中期も保存・修理に関わる人材育成は重要な使命であり、修理技術者、IPM従事者、地元の教育委員会等と連携しながら、対応可能な内容の研修を検討し、実施の方向性を探りたい。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1315A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を実施する。
（東京国立博物館）
ア　賛助会等の会員制度を通して、リピーター獲得の促進を図る。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会に参画し、上野地区の文化施設等と連携した各種事業を主体的に実施することで、認知度向上に努める。

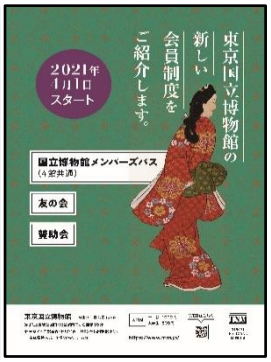
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（4館共通）
ア　29年度より新会員制度へ移行し、会員総数は12,418件となった。
イ　賛助会会員を対象に特別鑑賞会を実施した。
ウ　みずほプレミアムクラブ会員向けに例年行っていたバックヤードツアーに代え、ガイドツアー動画を作成・配信し、認知度向上に努めた。
エ　三菱商事株式会社の協力で障がい者内覧会を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。
特別展「桃山」では、キヤノン株式会社の協力により、文化財活用センターと共同で高精細複製品の展示を実施した。
オ　各種事業のbeyond2020への登録や、「日本博」事業に参画した。
（東京国立博物館）
ア　29年度から新たな会員制度として導入した「国立博物館メンバーズパス（4館共通）」及び当館オリジナル制度「メンバーズプレミアムパス」「友の会」の加入者増加に向けた取り組みを促進した。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会が主催するUENOYES2020イベント内において日比野克彦東京藝術大学教授と銭谷館長のトークセッションを実施するなど、東京国立博物館の認知度向上に努めた。また、東京都美術館の特別展「没後70年　吉田博展」に合わせて、本館18室と黒田記念館を紹介する連携音声ガイドを東京都美術館と共同で開発・提供した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　賛助会会員件数588件の内訳は個人536人（プレミアム5人、特別16人、維持515人）、団体52団体（特別20団体、維持32団体）である。
ウ　会員制度については、総合文化展料金改定に伴い、特典の見直しなど抜本的な制度改正を検討し、3年度より実施する。
（東京国立博物館）
イ　毎年実施している「文化の杜の音めぐり」は、新型コロナウイルスのため、上野公園の各館を舞台に東京文化会館が選定する東京音楽コンクール入賞者等が演奏する動画を作成し、配信した。また、東京都美術館と連携事業として東京都美術館で開催された特別展「没後 70 年　吉田博展」に合わせて、トーハク×都美 連携ガイド『めぐる美術～黒田清輝と吉田博』」の連携音声ガイドを制作公開した。



「トーハク×都美 連携ガイド」画面



会員制度改正の案内チラシ

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
賛助会等支援組織の会員数	12,418	－	－	経年変化	28,939	25,244	21,914	23,684
賛助会会員数	588	－	－		455	559	621	686
友の会会員数	1,772	－	－		2,337	2,967	2,939	3,145
メンバーズプレミアム（国立博物館メンバーズパスを含む）会員数※28年度までのパスポートとベーシックに相当	10,058	－	－		26,147	21,718	18,354	19,853

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
会員制度は、特別展の内容が大きく左右すること、並びに新型コロナウイルスの影響により会員数は減少となった。しかし企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めるとともに、展覧会における企業との連携による事業も継続して実施することができた。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
プレミアムメンバーズパス会員数は展覧会の内容などにより増減している。寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに年々堅調に推移したところ、新型コロナウイルスの影響のため、全体としての会員数は減少となったものの、博物館の支援基盤の充実という意味では、中期計画に沿った業務遂行が行われているといえる。次期中期においては、4年度の開館150周年に向けて会員制度のあるべき姿を検証し、引き続き支援者の増加に努める。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1315B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（４館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を実施する。
（京都国立博物館）
ア　支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会・シンポジウム等に協力する。
イ　ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　国立博物館メンバーズパスについて、新型コロナウイルスの影響による臨時休館を受けて、有効期間内に臨時休館期間を含むパスに対する有効期間の延長対応を行った。
イ　当館発行の国立博物館メンバーズパスについて、元年度から継続して近隣文化施設との相互割引等の特典を設定した。
ウ　・特別展共催者等が企画する団体貸切鑑賞会について、新型コロナウイルス対策の上受入れた。
・タクシー乗務員・ホテルコンシェルジュ向けの特別鑑賞会を開催し、広報協力を得た。
・三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトに参加した。
・三越伊勢丹とJALUXと共同して京都御苑、大阪国際空港売店にて販売するコラボ商品を開発することができた。
エ　企業（岩谷産業、きんでん、清水建設、大和ハウス工業、パナソニック、非破壊検査）より、展覧事業について各種支援（協賛・協力）を得た。
オ　・beyond2020及び日本博に特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」をはじめとする事業を登録した。
・日本博の大規模プロジェクトである「我が国の美術工芸品等の修理の技と自然の原材料を活かした伝承と活用」事業の一環として、特別企画「文化財修理の最先端」を当館で開催した。
（京都国立博物館）
ア　・一般社団法人清風会が行う鑑賞会（4回）・見学会（2回）・会報（4回）の解説、執筆及び総会の開催に協力した。
・公益財団法人仏教美術研究上野記念財団設立50周年事業として、特別企画「新聞人のまなざし」の開催と記念誌発行に協力した。
イ　・ミュージアムパートナー制度では、2年度から新たに支援を得た2社を含め、大多数のパートナーから継続して支援を得られた。
・元年度に行ったミュージアムパートナー制度の活性化のための特典拡充・手続き改定について、2年度より適用した。
・文化財保護基金では、企業等からの寄附金を引き続き受入れ連携を図った。

【補足事項】
（4館共通）
ア　2年度からの名品ギャラリー観覧料金の改定や新型コロナウイルスによる博物館を取り巻く状況の変化を受け、国立博物館メンバーズパスの年会費及び特典改定の検討を4館で行い、3年度から実施することとなった。
イ　ただし、特別展「皇室の名宝」では新型コロナウイルス対策として窓口対応を減らす目的で原則として割引・優待を実施しなかったため、国立博物館メンバーズパスも割引適用を外した。
ウ　タクシー会社・ホテルコンシェルジュ対象特別鑑賞会
特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」(3月29日　講師：保存修理指導室長　大原　嘉豊)（1回・81人）


特別鑑賞会の様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
賛助会等支援組織の会員数	948件	－	－		5,855	2,266	1,597	1,594
清風会及びミュージアムパートナー会員数	459件	－	－		370	452	485	521
国立博物館メンバーズパス会員数	489件	－	－		－	1,814	1,112	1,073
パスポート会員数	－	－	－		5,493	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
「国立博物館メンバーズパス」について、新型コロナウイルスの影響による臨時休館や来館者数の減少、一部の特別展で割引適用外となったため、新規会員数が減少した。3年度より制度改正を予定しているため、広報媒体の更新等を行い会員の継続・新規拡大に努める。
企業等との連携においては、ミュージアムパートナーの制度を改正し、新たに2社の支援を得られた。今後も新規開拓に努めたい。そのほかの事業について、新型コロナウイルスの影響はあったが臨機応変に対応し遂行した。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通じて、特に企業等との連携において支援・協力対象が拡大した。
会員制度については、個々の事業で新型コロナウイルスの影響を受けたが、情勢に応じた措置を行うことができ、中期計画を遂行できたと言える。

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1315C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（４館共通）
　企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
イ　支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
ウ　賛助会員制度の継続・拡充を図る。
エ　地域、企業との連携を推進する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
ア　入会案内チラシの配布等の広報を行い賛助会員の新規獲得を図った。
イ　賛助会員、奈良博プレミアムカード会員を対象とする研究員による解説付きの特別鑑賞会を実施した。
ウ　大手百貨店と連携してコラボレーションギフトの作製を行い、自己収入の増加と博物館の認知度向上を図った。
エ　他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
オ　東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として実施される「日本博」の趣旨に合わせた展覧会の検討を行った。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。
イ　特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。
ウ　賛助会員89件（特別支援会員：2団体、特別会員4団体、一般会員（団体）：16団体、一般会員（個人）：67人）
エ　・地元商店街、地元企業及び地元自治体と連携して観光イベント等を実施することにより、博物館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。
　　・企業と連携し、不用品の査定換金額が奈良国立博物館に寄付される取り組みを行った。

【補足事項】
（４館共通）
ウ　三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの作製・販売を行った。商品カタログへの情報掲載や、PRイベントの実施を通じて広報を行い、博物館の認知度向上に繋げた。
（奈良国立博物館）
エ
・地元商店街と連携し、よみがえる正倉院宝物展及び第72回正倉院展にて奈良博のチケット持参で割引制度を実施した。
・地元自治体と連携し、ふるさと納税の返礼品を提供した。





三越伊勢丹とのコラボレーションギフト
〈本髙砂屋〉×千手観音二十八部衆像

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
賛助会等支援組織の会員数	1,540人	－	－	経	3,812	1,740	1,499	1,459
賛助会会員数	89件	－	－	年	73	76	93	102
奈良博プレミアムカード会員数	1,285人	－	－	変	－	1,347	1,185	1,112
国立博物館メンバーズパス会員数	166人	－	－	化	－	317	221	245
パスポート会員数※	－	－	－		3,739	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　感染症対策に配慮しつつ、イベント等の地域連携や、民間企業との連携による広報活動を例年に引き続き実施し、博物館の認知度向上に努めることができた。
　また、新型コロナウイルスによる影響があったものの、奈良博プレミアムカードの会員数増加も寄与し、全体的な会員数は増加した。3年度からも、引き続き優待内容の改善や普及活動に努め、会員数を伸ばしたい。

【中期計画記載事項】
　企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　29年のパスポート制度廃止により賛助会員等支援組織の会員数は一時的に減少したが、同年当館独自の「奈良博プレミアムカード」制度を創設し、以降、当カードの新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、優待内容を充実させるなど、支援の継続を図ることができた。中期計画最終年度にあたる2年度は、元年度比約170名会員が増加しており、これまでの活動が実を結んだものと考えられる。
　また、地域連携として近隣商店街や地方自治体等と協力や、民間企業と連携した広報活動などにも努め、自己収入の増加と博物館の認知度向上に繋げた。以上より、中期目標については達成できたと評価できる。

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1315D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（４館共通）
　企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員の更なる獲得を図る。

担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長　山野孝 課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」、「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」及び「国立博物館メンバーズパス」の会員制度を継続し拡充を図った。
イ　「九州国立博物館友の会」会員を対象に、季刊情報誌『アジアージュ』、特集展示チラシ等を送付した。
ウ
・公益財団九州国立博物館振興財団と共同で、開館15周年記念特別企画「九博を彩った博多祇園山笠」を開催、博多祇園山笠の飾り山（一部展示）とパネル展示を行った。
・福岡女子短期大学と連携して館内のカフェで定期コンサートを実施した。
・JR九州や西日本鉄道等と連携し、福岡・九州の交通要所における広報強化に努めた。
エ　企業より展覧事業について各種支援（協賛・協力）を得た。
オ　特集展示及び特別展の一部について、beyond2020プログラムの認証を受けた。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員の広報に努め、新規会員の獲得を図った。2年度の新規加入数は2人であった。


西鉄福岡駅前ステージ広場での当館 PR 動画放映

【補足事項】
（4館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」「国立博物館メンバーズパス」「九州国立博物館賛助会」の会員制度について、当館ウェブサイト、リーフレット、チラシによる広報を行った。
　「九州国立博物館友の会」「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」「国立博物館メンバーズパス」については臨時休館に伴う会員有効期限の延長手続きを行った。
オ　beyond2020プログラム事業認証　7件
（九州国立博物館）
ア　賛助会員（プレミアム会員（個人）1人、特別会員（個人）4人、維持会員（個人）21人、プレミアム会員（団体）1団体、特別会員（団体）1団体、維持会員（団体）21団体）
（うち新規加入　維持会員（個人）1人）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
賛助会等支援組織の会員数	2,460人	－	－	経年変化	6,016	5,193	5,332	4,553
賛助会会員数	49人	－	－		－	2	45	47
友の会会員数	59人	－	－		268	83	73	91
メンバーズプレミアムパス会員数	2,300人	－	－		－	5,082	5,181	4,369
国立博物館メンバーズパス会員数	52人	－	－		－	26	33	46
パスポート会員数※	－	－	－		5,748	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　ウェブサイト、リーフレット、チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力し、一定の会員数を獲得することができた。
beyond2020プログラムや日本博参画プロジェクトの認証を受けた事業を実施し、日本文化の発信を行うことができた。
　賛助会の新規加入は2人であったが、多くの会員に継続加入いただいた。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画期間を通して、各種会員制度を継続し拡充を図るとともに博物館支援者の増加を図る取り組みを実施した。2年度は「友の会」等の会員数の増加は新型コロナウイルスの影響もあり伸び悩んだが、JR九州等企業との連携に取り組むことで博物館の認知度向上に努めた。
　また企業により展覧事業への協力を得ることができ、中期計画を遂行した。次期中期においても引き続き取り組み強化を図っていく。

※パスポート会員制度は29年3月31日に廃止。

【書式Ａ】　施設名 文化財活用センター・東博　処理番号 1321HA

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（文化財活用センター）
ア　4 館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」について、掲載画像を増やすとともに、画像の高精細化、データのアップデートを進め、その充実を図る。
イ　4 館収蔵品の国宝・重要文化財について、4 言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）をリニューアルし、新規国指定文化財の追加、解説文の見直しに着手する。
ウ　国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」にデータを提供する。

担当部課	本部文化財活用センターデジタル資源担当 東京国立博物館博物館情報課	事業責任者	課長　今井敦

【実績・成果】
（4 館共通）
・ColBase の不具合の修正や画像の追加を行った（画像追加 5,900 枚）。また各施設のデータを自動的に集約する機能を継続的に運用するとともに、対象機関に奈良文化財研究所を追加した。
・e 国宝のリニューアルを 10 月に行った。平成 22 年以降の指定品のデータを追加し、解説文、多言語データ（英語・中国語・韓国語）の見直しを行った。また、デザインを一新し、対象機関に奈良文化財研究所を加えた。
・国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」に ColBase のデータを提供した。

【補足事項】



リニューアル後の e 国宝

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及びe国宝を適切に維持管理し、e国宝のリニューアルを実施した。ColBaseについては、引き続きシステムを維持管理するとともに、利用者にわかりやすい文化財分類の表示、所蔵品データの修正や内容の追加、画像の追加を継続して行う必要がある。e国宝については、操作性の改善、外国語翻訳の質の改善を継続して行う必要がある。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他の関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、文化財及びその他関連する資料の公開について、ウェブ上でさまざまな公開手段を設けるとともに、公開データの件数を継続的に増加させ、中期計画を遂行できた。 今後、画像をはじめとする新規データの追加を計画的に進めるための方策を講じる必要がある。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1321B

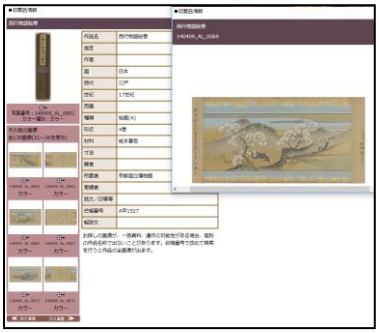
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（4館共通）
収蔵品のデジタル画像による情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、画像利用の条件等について、国内外の事例も参照しながら引き続き検討する。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品の説明を付した館蔵品データベースを継続して公開する。
イ　平成知新館レファレンスコーナーの情報閲覧システムにて、収蔵品の画像等を公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（4館共通）
「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」の充実を図るため、館蔵品データベースをColBaseのハーベスティングに対応するよう改修した。結果、館蔵品データベースで登録、更新されたデータが自動的にColBaseに反映されるようになった。また、e国宝のリニューアルに合せ、新規作品画像を登録するだけでなく、公開中の作品画像についても適宜、更新を行った。
（京都国立博物館）
ア　館蔵品データベースを更新し、館蔵品情報の公開を継続し、公開するデジタル画像を5,954枚増加した。
イ　新型コロナウイルス対策として、平成知新館2階レファレンスコーナーの情報閲覧システムは利用を休止中である。感染対策を前提とした、新しい提供方法の検討を行った。

【補足事項】



公開したデジタル画像の１枚
（館蔵品データベースより）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 館蔵品データベースだけではなく、e国宝やColBase、ジャパンサーチを通じて、より広く館蔵品情報を公開した。新型コロナウイルスの影響により、外出自粛の環境下において、館蔵品データベースによる効果的な情報発信を積極的に行い、広報の充実に努めることができた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスが蔓延し、オンライン等での所蔵品情報の公開が求められる中で、画像のデジタル化枚数を継続的に増加させ、館蔵品データベースの公開データを増加させることができた。中期計画に基づき順調に事業を実施することができた。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1321C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図る。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供する。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　野尻忠

【実績・成果】
（４館共通）
収蔵品のデジタル画像をウェブサイトで公開することを、継続して実施した。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図るため、フィルムをデジタル化した画像や新規に撮影したデジタル画像を、ウェブサイト上のデータベースで積極的に公開した。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供した。

【補足事項】
・新規撮影デジタル画像数は、1,835件である。
・データベースへの画像登録件数は、3,534件である。
・収蔵品データベースを、館内のサーバからクラウドへ移行した。
・以前より取り組んでいる収蔵品データベースの中国語・韓国語版については、今年度も内容の調整を進めたが、一般公開には至っていない。
・colbaseとの自動連携を目的に、元年度にいったん完了していた収蔵品データベースにおけるOAI-PMHリポジトリ化の構築について、数度にわたり改良を実施した。
・仏教美術資料研究センターで、来館者に公開しているデータベースのポータル画面を、最新内容に更新し利便性の向上を図った。



データベース（センター公開用）
ポータル画面の更新

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	既存フィルムのデジタル化、データベースへの登録件数など、情報発信のための数値は例年並みであり順調に成果を上げている。一方、収蔵品データベース（ウェブサイト公開用）を外部のクラウドに移設するなど、新たな試みもあった。データベース等の情報システムは日常的なメンテナンスが欠かせないが、その体制がまだ十分とは言えず、今後はそうした運用体制の整備を図る必要がある。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画期間全体を通して、ウェブサイト上の公開データベースにおける画像等の公開件数は、順調に増加している。ガラス乾板のデジタル化及びデータベースの構築や、収蔵品データベースの中国語・韓国語版の公開に向けての準備など、内容的にも充実化を図ることができたため、中期計画は予定通り達成できたと判断した。今後も引き続き、使いやすさや多言語化といった質的な向上に取り組んでいきたい。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1321D

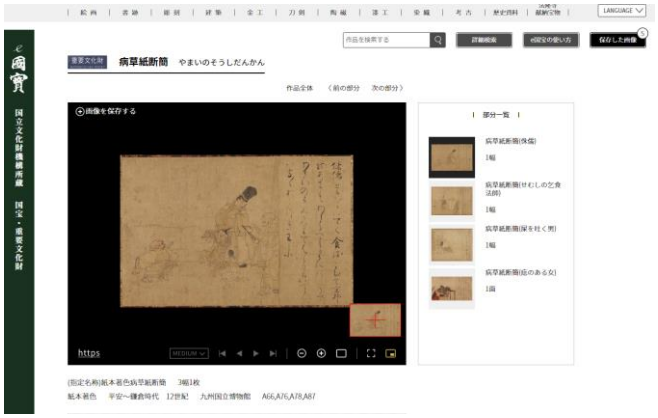
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品のデジタル画像による情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、画像利用の条件等について、国内外の事例も参照しながら、引き続き検討する。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品に関する基本情報及び展示情報を掲載した「収蔵品ギャラリー」を継続して公開する。
イ　対馬宗家文書、装飾古墳、郷土人形等のデータベースを継続して公開する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」に新収品を含むデータ110件を追加した。また、ColBaseへのデータ提供を自動化し、作業負担の軽減及び迅速な情報更新を実現した。
・e国宝のリニューアルにあたり、19件の指定品のデータを、高精細画像とともに4言語で追加公開した。

（九州国立博物館）
ア　収蔵品ギャラリーに、新収品を含む110件のデータ並びに111件の画像を追加し、文化財の基礎情報に加えて3ヶ月先までの展示情報を統合して情報の発信を続けた。
イ
・対馬宗家文書のデータベースは、引き続き公開運用を続けた。
・装飾古墳データベースは、引き続き公開運用を続けた。



リニューアルしたｅ国宝で新たに公開したデータ

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいてコンテンツを追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。対馬宗家文書データベース、装飾古墳データベースを引き続き公開するとともに、対馬宗家文書データベースのリニューアルについて検討を行った。なお、郷土人形データベースは、外部サーバにあったデータを当館で引き取り、内容を整理し、将来的に当館ウェブサイトでの公開を目指すため、公開を一時休止している。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて文化財その他関連する資料の情報を公開し、中期計画を遂行した。 また、中期計画最終年度である2年度は、公開データを約1,000件追加し、情報の充実・拡充を図った。また、新規撮影分の画像処理を進め、公開用データとして整備した。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1322A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　調査研究・教育等博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。
イ　博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。
ウ　資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。

担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	課長（兼情報資料室長）　今井敦

【実績・成果】
ア
・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、6,681 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像検索システムに画像データ 5,726 件を登録し、既存データ 1,513 件を修正して、正確な情報の提供に努めた。
・漢籍 1 点 5 冊（165 カット）及びシーボルト旧蔵本洋古書 6 冊（3,478 カット）のデジタル撮影を行い、デジタルライブラリーで公開した。また、「シーボルト旧蔵本」デジタル・アーカイブの情報も更新した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。（入館者 1,219 人）
・資料の保存のため、和雑誌についての合冊製本を行った。（新規分 273 冊、遡及分 11 冊）
　また貴重書用保存箱を 283 箱作成し、33 冊の補修を実施した。
・元年度に続き、図書館システム導入前に整理された和雑誌について、製本単位での所蔵データの作成とバーコード添付を 3,513 件実施した。
イ
・東京国立博物館の列品を収載している図書について、列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を、継続して実施した。
・ProtoDB における文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・雑誌に掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報を 2,451 件作成した。
・国立国会図書館のレファレンス協同データベースにデータを蓄積することにより、レファレンス協同データベース事業企画協力員賞を受賞し、レファレンスサービスの拡充と広報に資することができた。（新規登録 579 件）
ウ
・ILL（図書館間相互利用）サービスによる文献複写サービスの受付（館内外）、NACSIS-ILL の複写料金相殺サービスを継続して行った。
・特別展関連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。
・新型コロナウイルス感染症対策のため、各種対策をとり、安心して利用できるよう努めた。

【補足事項】
ア

新規受入図書	4,212冊	既存図書の遡及入力	636冊
逐次刊行物の新規受入	2,469冊	逐次刊行物の遡及入力	3,134冊

イ

当館開催展覧会カタログ	396件	他館開催展覧会カタログ	392件
当館刊行図書	1,642件	当館刊行雑誌	21件

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
外部の大学図書館等の間での文献複写サービスを継続して行い、館内外における利便性が向上した。また、収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。さらにレファレンス協同データベースにレファレンス事例を蓄積することにより、サービスとレファレンススキルの向上に資することができた。また新型コロナウイルス対応のためやむを得ない休館後、利用者及びスタッフの安全を図るため、３密回避策および接触感染対策を工夫し、臨時休館後可能な限り安全性に配慮し早期再開に努めた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
計画に定められた趣旨に則って、適切に資料の収集整理と公開を継続して行い、時宜に応じたサービスの改善を行った。中期目標を遂行することができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1322B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
ア　元年度に引き続き、各作業の効率化を図るため、文化財情報システムの登録や検索及び管理項目等の機能改修を行った。
・画像ストレージの容量増強を行った。
・調査、研究、教育等に資するため、新規図書814冊、逐次刊行物1,308冊を収集し、データベースへ登録した。

【補足事項】
ア　元年度に用意したエンクロージャー(ハードディスク・ドライブを格納する筐体)を使用し、画像ストレージの容量増強を行った。



増設したエンクロージャー

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	文化財情報システムの改修により、資料や収蔵品等の管理、検索機能が向上した。また、画像用サーバのストレージ増強により余裕をもった画像保存領域を確保し、今後の画像生成に必要な環境を整えた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画に沿って、画像のオープンデータ化において、博物館等における今後の画像公開や利用にあたっての方法や規約等について館内外関係者と検討を進め情報を蓄積することができた。今後の文化財情報システムや館蔵品データベース等の運用における材料となる情報を蓄積したことから考えて、中期計画を達成したと言える。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1322C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　野尻忠

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センターにおいてそれらの資料・情報の公開を継続した。センターでの資料公開は、新型コロナウイルス感染症が流行した影響で４月から７月まで一時停止したが、その後、利用人数を制限したうえで再開し、一定のサービスは維持できている。

【補足事項】
・図書情報システムへの登録件数は、1,555冊（和書1,476冊、漢籍45冊、洋書34冊）である。
・写真情報システムへの登録件数は、4,408件である。
・仏教美術資料研究センターでの資料の一般閲覧は、上記のとおり8月より再開した。再開にあたり、同時利用2名までの完全予約制とした上で、次のような感染症対策を講じている。利用資料の事前申告（任意）制、入室前の検温、受付カウンターへの飛沫防止板の設置、換気のための網戸と扇風機の設置、利用した図書の72時間隔離措置、閲覧者対応職員の手袋着用、清掃の徹底。
・上記とおり一般閲覧を予約制としたことをうけ、ウェブサイト上から閲覧日の予約状況を確認できるように、図書情報システムの運用を改善した。



センター利用の予約状況が確認できる画面

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 図書資料の充実、システムへの登録は順調に実施できている。写真資料についても同様である。一般閲覧者へのサービスは、新型コロナウイルスの影響により一時期停止し、また再開後も受け入れ人数を制限しているが、公開自体は継続できている。今後は、往来を自粛するなどして、閲覧に来られない方に向けたサービスを、如何に充実させていくかが課題である。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 博物館に求められる学術研究は日々多様化している。本中期計画の期間中にも、その範囲は拡がり、研究の基礎となる図書及び関連資料の収集は、ますます重要度を増した。中期計画期間中、着実に資料を広く収集し、情報として蓄積し、それを発信することができたため、所期の予定通り達成できたと判断した。今後は、限られた予算の中で何処に重点に置いていくか、といった戦略が求められよう。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1322D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め、内外の利用に供する。

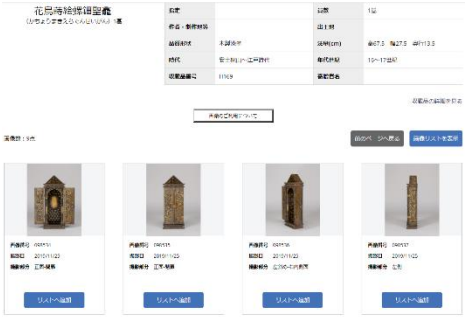
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
ア
蔵書管理
・新規に図書1,861点、雑誌933点、図録・報告書2,570点を購入又は受贈し、蔵書管理システム（日本事務器製ネオシリウス）に登載した。
・大量寄贈資料の受け入れに伴い、狭隘化した書架の大幅な資料移動、調整を行った。

画像管理
・文化財情報システムの一部として運用している画像管理システムに画像を3,013点追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データを連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が情報を活用しやすい環境づくりに寄与した。
・29年度にウェブサイトで公開した画像検索システムに約1,400点の画像を新規に追加した。申請により利用できる画像の一覧をウェブサイトに公開することで、文化財画像の利用に係るサービスを向上させた。



寄贈図書整理状況


画像検索システムで新規に公開した画像

【補足事項】
ア 画像等利用申請のうち5割以上が、29年度に公開した画像検索システムを活用して申請書が作成されている。申請件数も増加傾向であり、資料情報の発信及びその情報の利活用の促進に寄与している。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新規に図書1,861点、雑誌933点、図録・報告書2,570点を購入または受贈し、蔵書管理システムに登録している蔵書データの整備を着実に実施した。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画期間を通し、資料の収集及び目録整備を行った。また、ウェブサイトにて画像を公開し、中期計画を遂行した。2年度は図書の目録整備及び画像管理システムの内容充実を図り、より使いやすいシステムとして整備を進めた。 次期中期においても図書目録整備を実施し、将来的な公開に向けてのデータ整理を行った。画像に関しては、年々増加している画像利活用のため公開できる画像を増やしていく。

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 1323-1H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（機構本部）
ア　機構の概要、年報を作成する。
イ　機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行う。
ウ　文化財活用センターウェブサイトを運用し、センターに関する情報の提供を行う。

担当部課	本部事務局総務企画課 本部文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　伊藤進吾 課長　松嶋雅人

【実績・成果】
（機構本部）
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和2年度』（日本語版・英語版）を10月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイト（https://www.nich.go.jp/）に掲載した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和元年度』を3年2月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイトに掲載した。
イ
・機構本部ウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。
ウ
・文化財活用センターウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、センターに関する情報の提供を行った。
・国立文化財機構寄附ポータルサイトを8月に開設し、各施設への寄附等についてウェブ決済を可能とした。

【補足事項】
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和2年度』は日本語版2,100部、英語版700部発行した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和元年度』：175部、カラー4ページ・モノクロ1,020ページ
ウ
・ぶんかつブログ（https://cpcp.nich.go.jp/modules/rblog/index.php/1/）にて活動の舞台裏を紹介した。
3年3月末現在までに63件の（うち2年度33件）記事を掲載した。



国立文化財機構寄附ポータルサイト

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、概要及び年報を作成した。 ウェブサイトの運用を継続し、また寄附ポータルサイトを開設したことで、より広く寄附制度の周知を行うことができた。年度計画に沿って、機構全体や文化財活用センターの事業について、情報の提供を行うことができた。

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の最終年度として、中期計画どおりに積極的な広報活動を行うことができた。3年度以降も引き続き、広報印刷物やウェブサイト等の様々な媒体を通じ、情報提供を行う。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-1A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（東京国立博物館）総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
ア　「博物館でお花見を」、「博物館に初もうで」等を軸とした総合文化展の広報の企画・運営、広報・宣伝制作物の制作・配布等　を行う。
イ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	上席研究員(兼広報室長)　鬼頭智美

【実績・成果】
ア　2年度年間スケジュールリーフレット（「東京国立博物館 展示・催し物のご案内」4月-3年3月）は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2年度の展覧会等スケジュール確定の見込みが立たなくなったため、制作・配布を中止した。3年度年間スケジュールについては確定したものについて随時WEBでPDF版を公開、周知に努めた。
（東京国立博物館）
ア・『東京国立博物館ニュース』(隔月、6月より季刊)を作成、配布した。主な事業については別途プレスリリースを作成、配信会社も活用し、より広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、チラシ・ポスターのDM発送は行わず、周知にあたってはウェブサイト、SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)を重点的に活用した。
・親と子のギャラリー／日本文化体験　「まるごと体験！日本の文化」では、ポスター・チラシを作成、館内配布を実施、「博物館でアジアの旅」、「博物館に初もうで」では、周知用ビジュアルを作成、WEB告知や貸し出し画像に加えたほか、各事業のプレスリリースをマスコミ等に配信した。
イ　公式キャラクター「トーハクくん」「ユリノキちゃん」による直接来館者と触れ合う形の活動は休止し、キャラクターを使った動画配信を行い親しみやすい博物館を訴求した。また、元年度より継続していたLINEスタンプの制作が完了し、3年度には有料販売を開始する。

【補足事項】
（東京国立博物館）
ア
・通常行っている催し物案内に加えて、当館自体のPRツールとして、幅広い層から人気の伊藤若冲の作品「玄圃瑤華」をモチーフにしたポスターを6種類各200枚作成、館内の各所等に掲出し、好評を得た。
・元年度に続き、トーハクYouTubeチャンネルにて「オンラインギャラリーツアー」と題して、当館研究員による作品解説や展示紹介などの動画を計11回配信し、好評を得た。
イ
・2年末には公式キャラクター「トーハクくん」と「ユリノキちゃん」が一年を総括する動画を制作し、トーハクYouTubeチャンネルにて配信した。



東京国立博物館ポスター
玄圃瑤華　未草



公式キャラクター動画
「【2020→2021】
トーハクくんとユリノキちゃんが
１年を総ざらい」

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新型コロナウイルスの影響で、計画通りに広報用印刷物の配布ができなかったが、動画等のコンテンツ配信やポスター作成により広報上の当初目標は達成できたと考える。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画どおり個々の企画等について、広報印刷物・ウェブサイト・SNSなど自主媒体を活用した広報活動を展開し、一般及びメディア媒体への認知度を着実に高めることができた。また、LINEスタンプの制作も完了し、中期計画通り目標を達成したといえる。今後はウェブサイト・SNSを活用した広報活動をさらに推進していきたい。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1323-1B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（京都国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの配布（2年度分）及び製作（3年度分、20,000部）を行った。
（京都国立博物館）
ア
・各種イベントのポスター、チラシ（落語会16,000部、留学生の日13,500部等）の製作・配布を行った。
・特集展示「文化財修理の最先端」のポスター、チラシの製作を行った。また、特集展示「新聞人のまなざし－上野有竹と日中書画の名品－」においてもチラシの製作を行った。
イ　文化大使を引き続き任命した。
ウ　PR大使として、公式キャラクター「トラりん」を活用し、広報活動を行った。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア
・特集展示「文化財修理の最先端」図録では4言語（日、英、中、韓）の作品解説を付した。また、特集展示「雛まつりと人形」ではリーフレットを製作、配布することができた。
・新春特集展示のチラシでは新春特集展示「丑づくし」のほか、各種イベントや他の展覧会情報を紹介することができた。
イ　幅広い年齢層に向け、博物館の活動の周知とイメージアップができるよう、引き続き文化大使として俳優の竹下景子氏、藤原紀香氏を任命した。なお、両大使に特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」開会式に登壇してもらうよう手配していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。



京まふ2020に登場するトラりん

ウ
・トラりんのブログやツイッター、Facebook、YouTubeチャンネルを運用し、展覧会や博物館の情報を幅広い年齢層に向けて分かりやすく発信した。
・柵を設置し来館者との距離を確保しつつ、トラりんを最大毎週3日、1日3回館内に登場させ、親しみやすい博物館のイメージの浸透を図った。
・京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2020にトラりんを出張させ、特別展や当館のPR活動をした。
・オリジナルフレーム切手「京都国立博物館公式キャラクタートラりん 京都10ヶ所めぐリン！」を作成・販売し、当館の魅力を伝える広報活動を行った。
・「#おうちミュージアム」に参加し当館ウェブサイトの「おうちで楽しむ京博」ページにて、トラりんのブログやYouTube、オリジナルぬりえを公開する等、新型コロナウイルスの影響で休館中や来館できない方でも楽しむことができるコンテンツを拡充させた。
・トラりんのブログで「安全に楽しんでもらうためのお願い」を掲載し、新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のための取組を分かりやすく紹介した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 年間スケジュール及び展覧会チラシの製作・配布をコロナウイルスの影響下でも効果的に実施することができた。 新型コロナウイルスの影響により対面でのイベントに制限がある中でも、公式キャラクターを活用してブログや、ツイッター、Facebook YouTubeチャンネルといった各種コンテンツを拡充させ、休館中や来館できない方に向けても積極的にPR活動を行うことができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響によりイベントの実施に制限がある中でもコンテンツの拡充を図る等、新たな取組を増やし、さらに広報の幅を広げて活動をしたことを踏まえて、中期計画期間中を通じて目標を達成したと言える。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-1C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（奈良国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴って年間スケジュールに変更が生じたため、確定後の１回のみ作成した。

（奈良国立博物館）
ア
・各展覧会の特性や意義に応じた広報の方針を議論する広報戦略委員会を4回実施した。
・特別展の割引券を4言語表記で作製し、近隣の宿泊施設や観光案内所等に配布した。
イ　文化大使の笑い飯・哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）が出演するテレビやラジオ等で博物館のPRをしていただいた。
ウ　当館の認知度を高めるために、ブライダルの前撮り撮影場所として茶室、庭園及び仏教美術資料研究センター等を提供した。

【補足事項】



奈良育英小学校写生会



Cornes Osaka Showroom Exclusive Touring to NARA NATIONAL MUSEUM
（高級車の展示イベント）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの感染拡大により当初予定通りの実施が困難になったものもあるが、感染症対策を行い、屋外の敷地を利用する等で広報活動に努めた。 文化大使である笑い飯・哲夫氏にテレビ番組等でPRいただき、博物館のイメージアップに繋げることができた。 4言語（日・英・中・韓）表記での割引券を近隣社寺や観光案内所に配布する等、外国人観光客を取り込むための対策を実施した。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、館内委員会や共催者との会議において、展覧会毎に広報計画を策定し、企画の目的や内容、対象者に応じた効果的な情報発信を行うことができた。また、多言語対応の拡充や、小学生向けの企画の充実化を図るなど、広報活動や教育普及にも努めることができた。以上のことから、中期計画を達成できたと言える。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-1D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（九州国立博物館）
ア　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
イ　応援大使による広報活動を引き続き行う。
ウ　現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、展示情報を発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
エ　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツを活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図る。
オ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信を継続する。
カ　民間企業と協同し、商品開発やコラボイベントによる広報活動を推進する。

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長　白井克也 課長　沓掛裕顕

【実績・成果】
（４館共通）
ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。
（九州国立博物館）
ア 特別展の実施に伴い、担当研究員によるテレビ、ラジオ番組への出演や、地元の新聞やフリーマガジン等への展覧会内容の掲載を行った。マスコミによる広報・宣伝を行った。
イ 応援大使サラ・オレイン氏による、広報番組TVQ九州放送「太宰府・九博散歩道」のナレーションや各種SNSによる当館PRなどの広報活動を行った。
ウ ウェブデータベースの整備を継続し、当館ウェブサイトから詳細な展示品情報を提供した。
外国人観光客へ向け、当館ウェブページ上で英語・中国語・韓国語での展示案内を行った。
エ 空港・JR・西鉄・観光案内所・ホテルなどと連携し、ポスター、チラシなどによる広報を展開した。
また、動画配信サイトYoutubeの九博チャンネル内において、多様な動画コンテンツを配信した。
オ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」の閉店に伴い、ショップ内での情報配信を中止。
カ 正月イベントとして、民間企業と共同でノベルティを開発し、来館者へ配布することで広報活動を推進した。


JR 博多駅での広報の様子



Youtube 動画（九博チャンネル）


正月ノベルティのアロマスプレー

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　参道フラッグの設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。
エ
・「展示・イベント案内ちらし」を毎月、『季刊情報誌アジアージュ』を年4回、公共施設・交通機関・観光案内所・宿泊施設・旅行会社等に送付するとともに、送付先を大きく拡大した。
・Twitter、Youtube、メルマガ等を活用し、多様な情報を発信した。また、従来のプレスリリースと並行して、ウェブリリースサービスを活用し情報発信を行った。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 既存の広報先だけでなく、空港や駅、地下鉄等の広報展開先を大幅拡大させた。また、TwitterやYoutube、メルマガ、ウェブリリースサービスの活用など、各種SNSやデジタルコンテンツにより様々な層に多様な情報を発信した。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、博物館事業の企画の目的や内容等を考慮し、マスコミ、観光関係、交通関係、 Youtube、メルマガ等も活用し、幅広い層に向けた広報を実施することができたため、中期計画を遂行できたと考える。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-2A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（4館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（東京国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

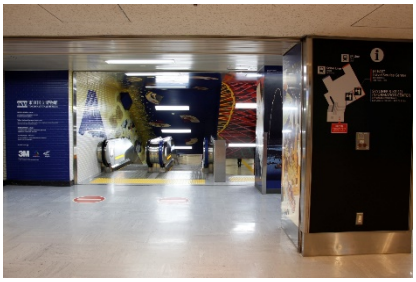
担当部課	総務部総務課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 上席研究員(兼広報室長)　鬼頭智美

【実績・成果】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
（東京国立博物館）
ア　特別展・特集展示及び教育事業についてマスコミ向けに情報を送付・配信した。新型コロナウイルスの流行下により通例の対面式の記者発表会は行わなかったが事業ごとにプレスリリースを配信、また報道内覧会は５回開催した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　成田国際空港会社・スリーエム ジャパン株式会社と連携し、成田国際空港第１ターミナルに当館収蔵品画像を使っての壁面・天井装飾を２年度も引き続き実施し、羽田空港の京急国際線ターミナル及びモノレール羽田空港駅への広告出稿を継続した。
（東京国立博物館）
ア　特別展などで報道内覧会の実施、プレスリリースの発信を行い、新聞主要紙・美術系番組制作者等に適時性を持って情報を提供し、新聞・テレビなどで紹介された。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイト、東京メトロ上野駅「文化の杜路」へのポスター掲出等、イベント情報の広報を積極的に実施した。そのほか、「UENOYES2020」や「文化の杜の音めぐり 2021」のイベントに協力するとともに、文化の杜のポータルサイトや東京都美術館との連携広報など地域と連携した広報活動を実施した。また、東京都美術館と連携事業として東京都美術館で開催された特別展「没後 70 年　吉田博展」に合わせて、「トーハク×都美 連携ガイド『めぐる美術～黒田清輝と吉田博』」の連携音声ガイドを制作・公開した。



特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」報道内覧会



成田空港第１ターミナル内装飾（継続）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 上野文化の杜の事業として、東京都美術館との連携企画の実施など、上野地区での認知度向上を積極的に実施した。 また、特別展の記者発表会や報道内覧会には毎回80名～200名程度の記者が出席、各展覧会の広報を効果的に行うことができた。 3年度以降も、新聞主要紙・美術系番組など影響力の高い媒体に取り上げられるよう努めていく。

【中期計画記載事項】(略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して上野文化の杜新構想実行委員会加盟機関とトークセッションや、連携した広報ポータルサイトの立ち上げなど、様々な連携事業を展開した。 今中期最終年度となる2年度は新型コロナウイルスの流行下において、動画配信による情報発信に努めた。また、東京都美術館の特別展に連携して音声ガイドを開発し、自主媒体の活用並びに近隣施設との連携強化等、中期計画通りの広報活動を行った。 以上のことから中期計画を遂行できたといえる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-2B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（京都国立博物館）
ア　地域等が主催する各種委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
イ　京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア
・特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」において、読売新聞社と連携し紙面広告等を掲載して広報を行った。
・特別展「皇室の名宝」において、共催のNHK京都放送局・NHKプラネット近畿と協力して8Kを含む特別番組を制作し、「皇室の名宝」の認知度を上げた。また、読売新聞社と連携し主要ターミナル駅近くのデジタルサイネージ等へ広告を掲示し広報を行った。
・特別企画「文化財修理の最先端」において、京都新聞社と連携し紙面広告等を掲載して広報を行った。
・京阪ホールディングスと連携し、同社の観光庁受託事業「夜も朝も楽しめる京都アートツーリズム振興事業」における、MICE・インセンティブツアー造成を目的とした動画撮影やファムトリップへの協力を行った。
（京都国立博物館）
ア
・地元の七条鴨東商店街の会合に参加し、地域連携の企画等を検討した。
・京都市内博物館施設連絡協議会が主催する京都ミュージアムロードに参加することにより京都市内の他の博物館と連携し、広報を展開した。
イ　京都市内4美術館・博物館で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、合同パンフレットを作成し4館を巡るスタンプラリーを実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、どちらも中止となった。

【補足事項】
（4館共通）
ア
・特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」において、京阪ホールディングスと連携し、研究員が講師を務めるまちあるき企画を実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。
・京都市内のタクシー会社と連携し、広告を設置した。
（京都国立博物館）
ア・京都市等が主催する京都国際マンガ・アニメフェア2020（京まふ）と連携し、会場でトラりんが特別展のPRを行った。
・京都市及び地元の商店街が主催する京都駅東部七条界隈における周遊促進事業「七条つながる商店街スタンプラリー」と連携し、スタンプラリーポイントとして参加予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。
・京都府等が主催する国際的なアートフェアArt Collaboration Kyotoと連携し、特別企画等の広報活動を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、前半は積極的な広報活動が実施できなかったが、後半は行政や地域との連携強化による情報発信をすることができた。 特別展においては主催者であるマスメディアと協力して展覧会情報の発信を積極的に行った。また、新型コロナウイルスの影響により事前予約優先制を導入した際はマスメディアと連携し公式ウェブサイト等で事前に周知することができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の最終年度として、行政や地域との連携強化による広報活動を展開することができた。次期中期計画以降も引き続き、積極的な広報活動を展開する。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-2C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（奈良国立博物館）
ア　近隣社寺・博物館等との連携協力により、集客増に繋がる広報活動を展開する。
イ　展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。
ウ　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
エ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布など広報協力を依頼する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展においては、主催者である新聞社と連携し積極的に紙面広告を掲載することで展覧会の広報を行った。また、公共交通機関とタイアップした社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出、地下鉄駅構内の有料広告スペースへのポスターの掲出により展覧会に関する情報発信を行った。また、イオン及び JAF での広報を行い、イオンカード及び JAF カードの提示で割引が可能とした。
（奈良国立博物館）
ア　奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、相互割引を実施した。
イ　なら仏像館で年 4 回実施している仏像供養及び保存修理所公開等には、マスコミへの情報提供を行い、取材を積極的に受け入れた。
ウ　奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良市観光協会との連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。
エ　期間限定の無料観覧券を周辺関連社寺において配布し、展覧会の広報と博物館の認知度アップに繋げた。

【補足事項】



京都市営地下鉄ホーム掲示

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 公共交通機関とタイアップしての広報活動を行い、展覧会の周知強化ができた。また、イオン等の一般企業との協力も積極的に行い、新たな来館者層の獲得に努めた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 自主媒体を活用した情報発信、マスメディアと協力した広報活動、地域連携を着実に実施し、中期計画を達成できた。次期も地元自治体や近隣社寺との連携を更に強化し、奈良公園だけでなく、奈良公園と近隣美術館・博物館を含めた共通観覧券を作製することの検討等、積極的な広報活動を展開していく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-2D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（九州国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
ウ　九州観光推進機構等を通じた海外への広報・営業活動を展開する。
エ　近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア 主要駅でのデジタルサイネージの掲出や車内ポスターの掲示等、公共交通機関等と連携して広報活動を展開した。
（九州国立博物館）
ア マスコミ各社を対象とする報道発表会、内覧会を実施した。
イ 太宰府観光協会と連携して太宰府天満宮参道での告知フラッグを設置した。また、各種公共交通機関等と連携し、本館PRポスター・チラシ・動画等の広告を大きく拡大した。さらに、商工団体へ「展示・イベントスケジュール」、「季刊情報誌アジアージュ」を送付し、商工団体会員等への周知を依頼する等、地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開した。
ウ 2年度の海外への広報・営業活動については、新型コロナウイルスの影響により中止した。当館ウェブサイトや当館ブログでは、4言語（日・英・中・韓）での情報発信を継続して行った。
エ
・博多祇園山笠振興会等と連携し、「飾り山笠」の展示企画を実施するとともに、博多祇園山笠関連の写真パネル展も実施した。
・近隣大学学生によるきゅーはくカフェコンサートを実施した。

【補足事項】



太宰府駅での広報の様子



JR 二日市駅での広報の様子


博多祇園山笠 飾り山笠の部分展示

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新たなPRポスターなどの制作を実施するとともに、館敷地内や公共交通機関等に展開したほか、博多祇園山笠振興会等に協力いただき、博多祇園山笠飾り山笠の部分展示や関連のパネル展示を実施することで、特別展の告知にもつながった。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、広報印刷物やウェブサイト等を活用し、近隣施設や団体と協力して広報を実施することができた。また、中期計画の最終年度である2年度は近隣大学学生によるきゅーはくカフェコンサートを実施するなど、近隣地域の諸団体と連携し、イベントを打ち出すことができたことから、中期計画を達成できたといえる。次期中期においても諸団体と連携しながら積極的に広報を行いたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-3A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　ウェブサイトでは、ブログ等博物館の顔が見えるコンテンツを継続して発信する。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを含む）を活用した情報発信を継続して行う。

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　今井敦 上席研究員(兼広報室長)　鬼頭智美

【実績・成果】(4館共通)
ア ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
イ メールマガジンを配信した（21回）。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』を季刊（年4回）で各50,000部を制作、配布した。
イ　ブログ33エントリー、40本以上の動画制作・配信及び動画も使ったSNS配信により展示・催しものについて紹介し、家にいながら博物館を楽しんでもらえるよう努めた。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）により適時性のある情報を発信し、利用者から好意的な反応を多く得た。

【補足事項】
(4館共通)
ア　当館ウェブサイトの中国語（簡体字)、韓国語ページについて日本語・英語ページと同等程度の情報を掲出できるよう準備を完了、運用の詳細を決定次第公開予定である。
イ　画像付きのメールマガジンが好評で利用者も伸びている。
（東京国立博物館）
ア・『東京国立博物館ニュース』を季刊としてリニューアル、内容の充実を図った。
・部数については当初各号それぞれ、7万5千部制作予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う来館者数減少の影響を鑑み、6・7・8月号、9・10・11月号、12・3年1・2月号については制作部数を5万部へ変更した。3年3・4・5月号については7万5千部制作した。
ウ　ツイッター：フォロワー85,462件(元年度76,656件)、フェイスブック：いいね！33,618件（元年度32,186件)。元年度より着実に数を伸ばしている。また、インスタグラムではフォロワーが31,190件（元年度15,787件）とほぼ倍増した。ツイッター及びインスタグラムでは多言語による情報提供も試行し、グローバルに館の存在感を高めるようにしている。



『東京国立博物館ニュース』
6・7・8月号（リニューアル号）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化※1･2		28	29	30	元
ウェブサイトのアクセス件数※1	7,021,923件	5,380,118件	A		①	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810
					②	7,427,419	—	—	—

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 メールマガジンに画像を取り入れ、インスタグラムに動画を増やすなどの改良により、利用者を増やすことができた。ウェブサイトのアクセス件数は中期計画期間中目標値以上の成果を達成し、SNSのフォロワー数も十二分に確保できている。今後は多言語によるツイッター、インスタグラムのサービスを追求し、若年層に訴求する内容の情報を発信し、海外在住の利用者など新規の利用者拡大を図る。

【中期計画記載事項】（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトのアクセス数は中期計画期間全体としては伸びており、2年度は新型コロナウイルスの流行下で実際の来館が難しい中、中期計画通りウェブや館のSNS経由での情報提供、サービス利用を図り、タイムリーな情報発信を行うことができ、中期計画を遂行できた。

※1　29～2年度実績は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。
※2　上段①の数値は、本体サイトのみのアクセス件数。下段②の数値は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1323-3B

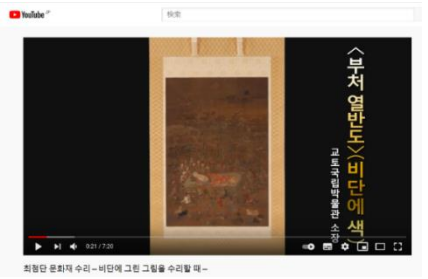
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』、『Newsletter』（英文）の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　博物館ディクショナリーを発行し、新刊をウェブサイトにて公開すると同時に、メールマガジンにて配信する。
ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。
エ　SNS（ツイッター等）による情報発信を継続して行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　ウェブサイトアクセス件数は3,480,100件であり目標値を上回った。
イ　メールマガジンを12回配信した。（169～180号）
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』（206～209号）、『Newsletter』（145～148号）の発行を行った。
イ　博物館ディクショナリー（206号(増刷)、221～223号）を発行し、新刊をウェブサイトで公開するとともに、メールマガジンにて配信した。
ウ　収蔵品貸与情報について、ウェブサイトの「館外での作品公開」に59件公開した。
エ　当館公式ツイッター、公式キャラクター「トラりん」のツイッターやフェイスブック、YouTubeチャンネルを積極的に利用して情報発信を行った。

【補足事項】
（4館共通）
ア
・特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」において、ウェブ媒体を使用して展覧会の見どころを紹介する生放送を行った。
・「おうちで楽しむ京博」という当館ウェブサイト上で楽しむことのできるコンテンツを集めたポータルサイトを作成し、利便性を向上した。
（京都国立博物館）
エ　当館オフィシャルの YouTube チャンネルを開設し、4 言語（日本語・英語・中国語・韓国語）の動画を公開するなど情報発信を行った。



当館のオフィシャルYouTubeチャンネルにて公開した動画（韓国語版）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ウェブサイトのアクセス件数	3,480,100件	2,274,464件	A		3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	ウェブサイトは新型コロナウイルスの影響もあり、展覧会情報のアクセス数が減少したが、新しくYouTubeチャンネルを開設する等の新規の取組みを始めることで目標値を大幅に達成することができた。また、当館ウェブサイトにて「おうちで楽しむ京博」と題して家で楽しむことができるコンテンツを用意し、ウェブサイト上で楽しめる機会を増やすことができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2年度は新型コロナウイルスの影響もあり展覧会情報へのアクセス数は落ち込んだものの、新しく「おうちで楽しむ京博」やYouTubeチャンネルを創設する等、新型コロナウイルス流行下における時宜にかなった取組を行い、少しでも多くの人にウェブサイトを訪れてもらえるよう努力したことにより、中期計画期間を通して目標値を超えることができた。今後も新しいニーズに応じたウェブサイト構築を心掛けていく。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-3C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（奈良国立博物館）
ア　特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　ウェブサイトのほか、メールマガジン、SNS（Twitter）による情報発信を行う。
ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載する。
エ　外国語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	情報サービス室長　宮崎幹子

【実績・成果】
ア 特別展、特別陳列の開催や、名品展の展示替えごとにウェブサイトを更新し、最新の情報提供を行った。ウェブサイトのアクセス件数は、1,082,864件となった。
イ メールマガジンは機構のメール統合により現行システムでは配信不可能となったため、Twitter等のSNSでの情報提供を充実させるよう努力した。
（奈良国立博物館）
ア 特別展、特別陳列の案内、名品展の展示品の紹介に加え、文化財に係るエッセイやイベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った（年4回）。
イ
・名品展や特別展の紹介に加え、イベント情報等をウェブサイトに掲載した。さらにSNS（Twitter）でも迅速かつ効率的な情報発信を行い、フォロワー数は25,000人に至った。
・ Youtubeで「ならはくチャンネル」を開設し、奈良博の紹介や各展覧会の情報の動画を作成し情報発信を行った。奈良県等が参画する「いかす・なら地域協議会」の支援を受け、教育普及活動及び文化観光に関する情報発信のための新ウェブサイトを立ち上げた（稼働は3年4月以降）。
・株式会社ドワンゴが運営するニコニコ美術館において、特別陳列「お水取り」(2月28日）と「特別陳列『帝国奈良博物館の誕生』＆なら仏像館・特別公開『金峯山寺　金剛力士立像』を巡ろう」(3月8日）を展覧会担当者が解説を行う動画を配信した。
ウ 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF 版をウェブサイトに掲載した。
エ 特別展、正倉院展について、外国語チラシを作成し、外国人観光客への情報提供を行った。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア 『奈良国立博物館だより』は館内にて無料配布のほか、希望者には郵送で提供した。
イ 新型コロナウイルス感染症拡大とそれに伴う臨時休館を受けて、Twitterでの情報発信を充実させ、館蔵品の紹介を継続的に行った。また、寄託品である法隆寺金堂壁画写真ガラス原板のデジタル画像について、デジタルビューアサイトを構築し、多言語（日・英・中・韓）での発信を行った。
エ 「よみがえる正倉院宝物」、「第72回 正倉院展」について、外国語チラシ（英）を作成し、外国人観覧者への情報提供を行った。



奈良国立博物館　Twitter

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ウェブサイトのアクセス件数	1,082,864件	953,946件	A		1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 前年度に引き続き、ウェブサイト及び広報物を通じて広く情報提供を行った。特に２年度は新型コロナウイルス感染症拡大により臨時休館や開館時間の変更、特別展の延期等不測の事態が多数生じたが、ウェブサイトやTwitterを通じて迅速な情報提供を心がけ、印刷物での情報発信を補うことができた。 また、法隆寺金堂壁画写真ガラス原板の画像公開について、短時間で関係者の承諾を得てシステム構築にこぎ着けた点も特筆される。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通し、ウェブサイトへのアクセス件数、Twitterのフォロワー数は順当に増加しており、迅速かつこまめな情報発信を行い、時宜にかなった広報活動として成果をあげている。Twitterでの館蔵品の紹介や法隆寺金堂壁画写真ガラス原板画像の公開については多言語でも発信を行い、海外から高い評価を得ることができた。以上より、中期計画において非常に高い成果を上げることができたと評価した。

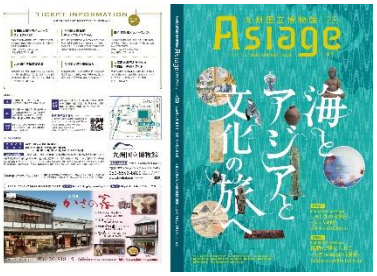
【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-3D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（九州国立博物館）
ア　ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
イ　４言語(日・英・中・韓)によるウェブサイトでの情報提供を行う。
ウ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行う。(年４回)
エ　SNS（ツイッター）による情報発信を継続して行う。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア リアルタイムな展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、Twitterにて駐車場空き情報を継続して提供するとともに、展示室の人数制限の情報を新たに提供した。
イ リアルタイムな展示・イベント情報等のメールマガジンを月２回配信した。
（九州国立博物館）
ア 利用案内に係る記載で分かりにくい表現等の一部見直しを行うなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努めた。ウェブサイトへの当館Youtubeチャンネルの動画の掲載やTVQ九州にて月１回放送している、太宰府と当館の見どころを紹介する番組の掲載など媒体ごとに関連性を持たせた。
イ ウェブサイトの４言語（日・英・中・韓）について、言語毎に情報の出し方を変えるなど、工夫した情報発信を行った。
ウ 『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行った（年４回）（電子配信も並行実施）
エ イベント情報や展示替え情報、駐車場の混雑状況だけでなく、館外の自然景観やショップの新商品の案内等、当館へ足を運びたくなるような情報をSNS（Twitter）による発信を継続して行った。



季刊情報誌アジアージュ

【補足事項】
（４館共通）
ア 駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、Twitterにて駐車場空き情報を継続して提供した。
イ Twitterのフォロワーは2年で約8,000人増加(2019.4→2021.3)し、3月末時点で16,924人となっている。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ウェブサイトのアクセス件数	824,819件	1,696,500件	B		2,117,092	1,607,401	1,752,803	2,047,955

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトの多言語化をより充実させた。また、駐車場の混雑状況をリアルタイムに案内するなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信ができた。 ウェブサイトのアクセス件数は、新型コロナウイルスの影響による閉館や特別展の中止等により減少したが、2年度に引き続きメルマガ登録数の増加及び開封率、Twitterのフォロワー増加数についても高い状態を保っており、利用者に対するメルマガやTwitterを用いた広報活動の効果が実感できた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度は新型コロナウイルスの影響により、特別展や様々なイベント実施が困難であったため、ウェブサイトのアクセス数は減少した。しかし、中期計画期間を通し、広報印刷物やウェブサイト等を活用し、積極的な広報活動を順調に行ったことから、中期計画を達成できたと考える。2年度においても、ブログやTwitter等を活用し、展示情報、観覧環境などをリアルタイムに更新するなど、広報活動を積極的に行った。 次期中期においても館内に設置する広報委員会において広報計画を策定し、広報活動を展開していく。